

# 食の安全意識調査報告書



令和3(2021)年11月

栃木県保健福祉部生活衛生課

## 目次

I 概要	.....	1
II 調査結果	.....	5
III 参考データ	.....	45
IV 考察	.....	46

# I 概要

## 1 調査目的

県民の食の安全に対する意識や食の安全対策への要望等を把握するためにインターネットによりアンケートを実施しました。

今回のアンケート結果については、食の安全を守る取組を推進するに当たり、今後の食の安全に係る施策に反映するための基礎資料として、また、とちぎ食の安全・安心・信頼性の確保に関する条例(平成 18 年栃木県条例第 39 号)に基づく、とちぎ食の安全・安心・信頼性の確保に関する基本計画の策定の際などに活用させていただきます。

## 2 調査設計

とちぎネットアンケート

### (1) 調査対象者

976 名(とちぎネットアンケート協力者)

### (2) 調査期間

令和3(2021)年 11 月 9 日～11 月 22 日

### (3) 調査方法

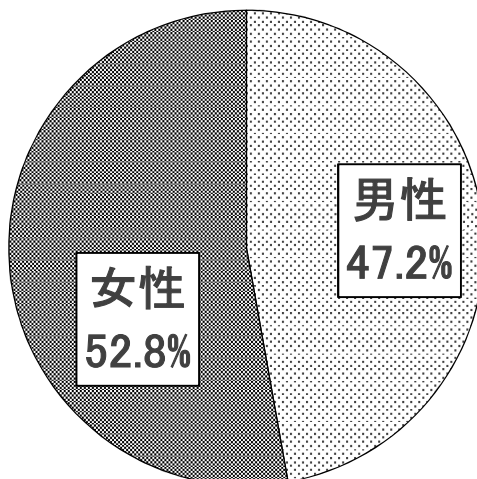
電子メールにより周知・回答依頼。電子申請による回答

## 3 回収結果

回答数 481 名(回答率 49.3%)

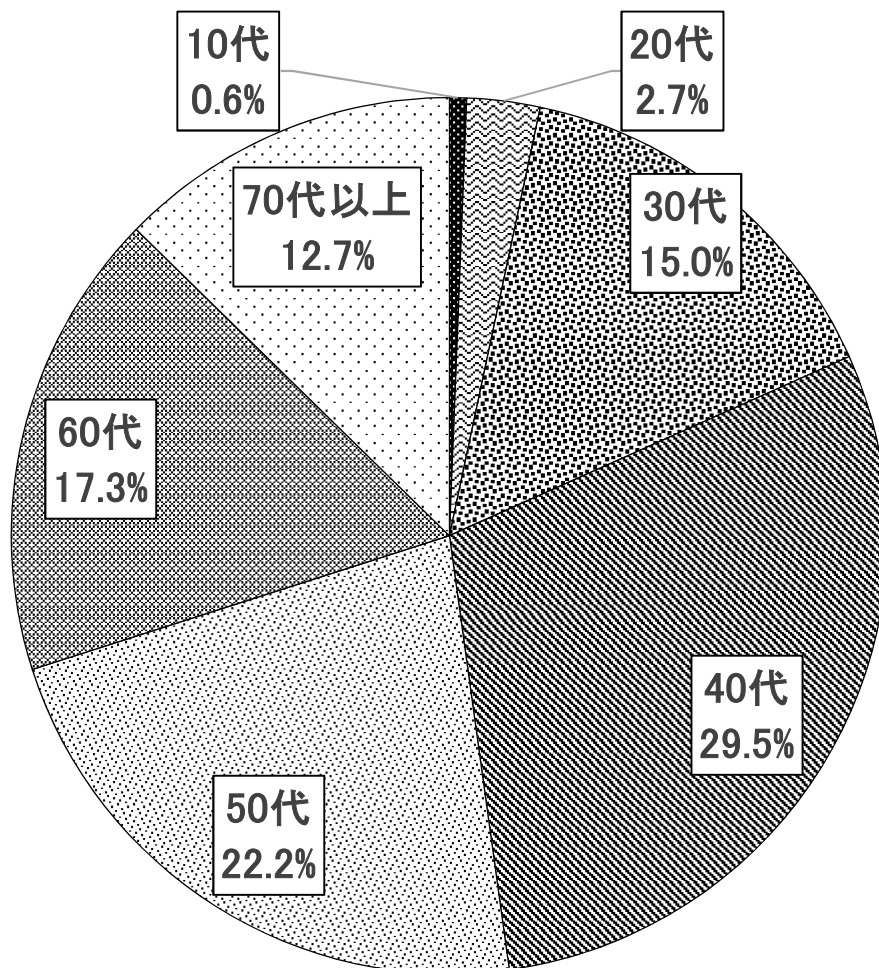
### (1) 男女別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
男性	227	47.2
女性	254	52.8
計	481	100.0



(2) 年代別回答者内訳

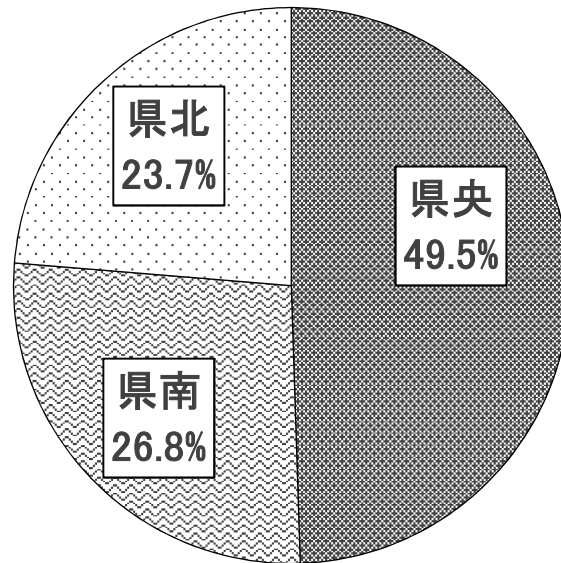
区分	回答者数(人)	構成比(%)
10代	3	0.6
20代	13	2.7
30代	72	15.0
40代	142	29.5
50代	107	22.2
60代	83	17.3
70代以上	61	12.7
全体	481	100.0





(3) 地域別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
県北地域	114	23.7
県央地域	238	49.5
県南地域	129	26.8
全体	481	100.0



なお、地域の区分は、次のとおり分類している。

地域名	該当市町名	人口比率 (県人口 1,923,224 /R3(2021).10.1 現在)
県北地域	日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、 那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町	22.9% (441,178)
県央地域	宇都宮市、鹿沼市、真岡市、上三川町、益子町、茂 木町、市貝町、芳賀町、壬生町	42.5% (818,325)
県南地域	足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、野木町	34.5% (663,721)

#### 4 報告書の見方

- (1) 本文に使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 割合を百分率(%)で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示。四捨五入の結果、合計が100%にならないことがあります。
- (3) 図表中の語句は、表記を短縮・簡略化している場合があります。

#### 5 とちぎネットアンケート

インターネットを活用してアンケートを実施し、県民の意識傾向やニーズを把握して県政に活かすことにより、協働による県政の推進を図ることを目的として実施しています。

なお、アンケート協力者は、県内在住の満16歳以上の方で、インターネットのウェブサイトの閲覧、日本語による電子メールの利用が可能な方で、次の方は応募できません。

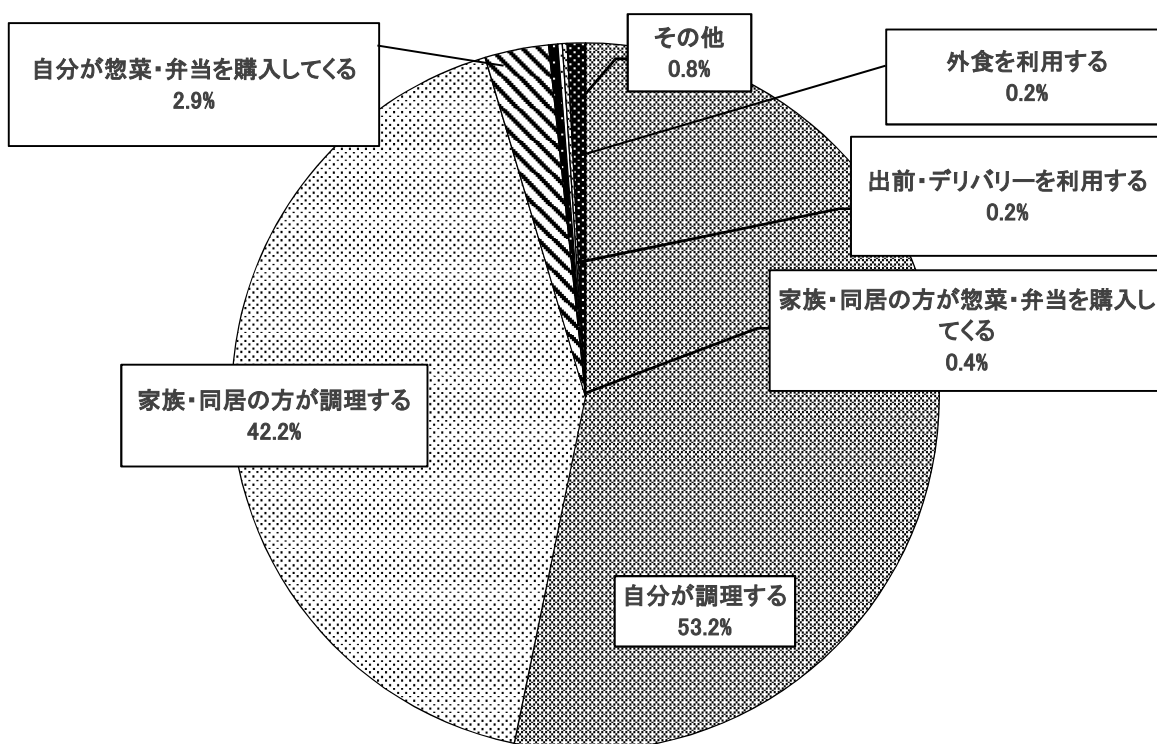
- ・国または地方自治体の議員
- ・常勤の国家公務員
- ・常勤の栃木県職員(教員を除く)

## II 調査結果

【問1】あなたの普段の食事のとり方について、一番あてはまるものを選んでください。

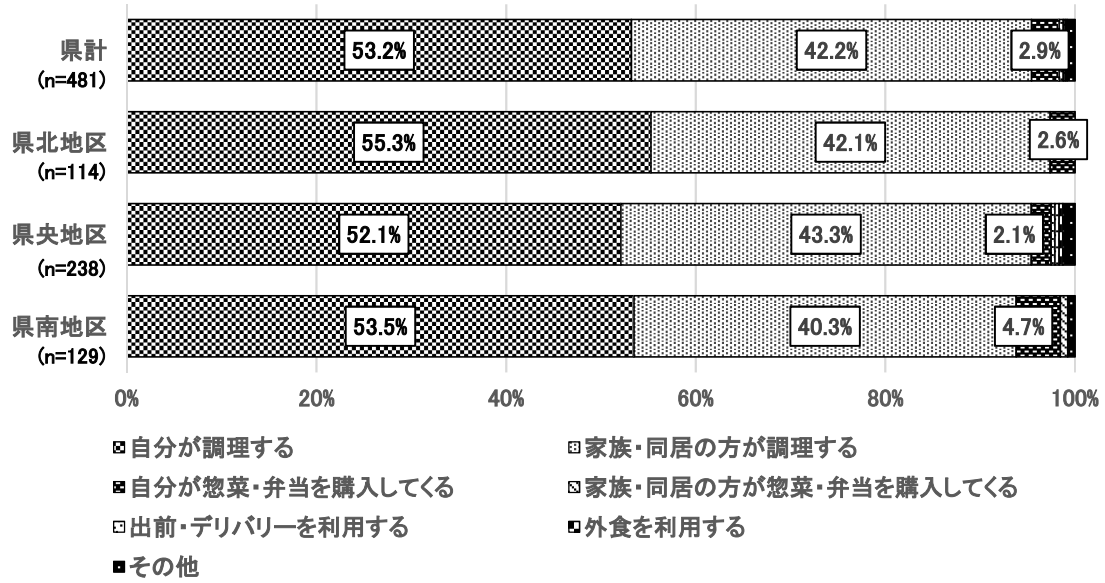
(n=481)

	構成比	回答数
1 自分が調理する	53.2%	256
2 家族・同居の方が調理する	42.2%	203
3 自分が惣菜・弁当を購入してくる	2.9%	14
4 家族・同居の方が惣菜・弁当を購入してくる	0.4%	2
5 出前・デリバリーを利用する	0.2%	1
6 外食を利用する	0.2%	1
7 その他	0.8%	4



・普段の食事のとり方について、全体で見ると「自分が調理する」が53.2%で最も多く、次いで「家族・同居の方が調理する」が42.2%、「自分が惣菜・弁当を購入してくる」が2.9%であった。

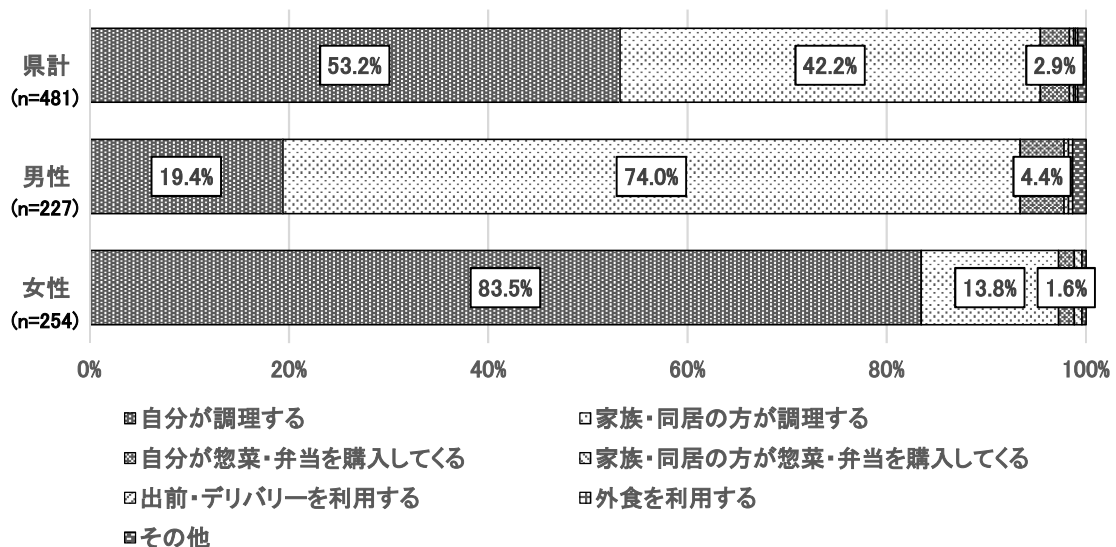
## 地域別



選択肢	県北	県央	県南	計
1 自分が調理する	55.3%	52.1%	53.5%	53.2%
2 家族・同居の方が調理する	42.1%	43.3%	40.3%	42.2%
3 自分が惣菜・弁当を購入してくる	2.6%	2.1%	4.7%	2.9%
4 家族・同居の方が惣菜・弁当を購入してくる	0.0%	0.4%	0.8%	0.4%
5 出前・デリバリーを利用する	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%
6 外食を利用する	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%
7 その他	0.0%	1.3%	0.8%	0.8%

・地域別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

## 性別



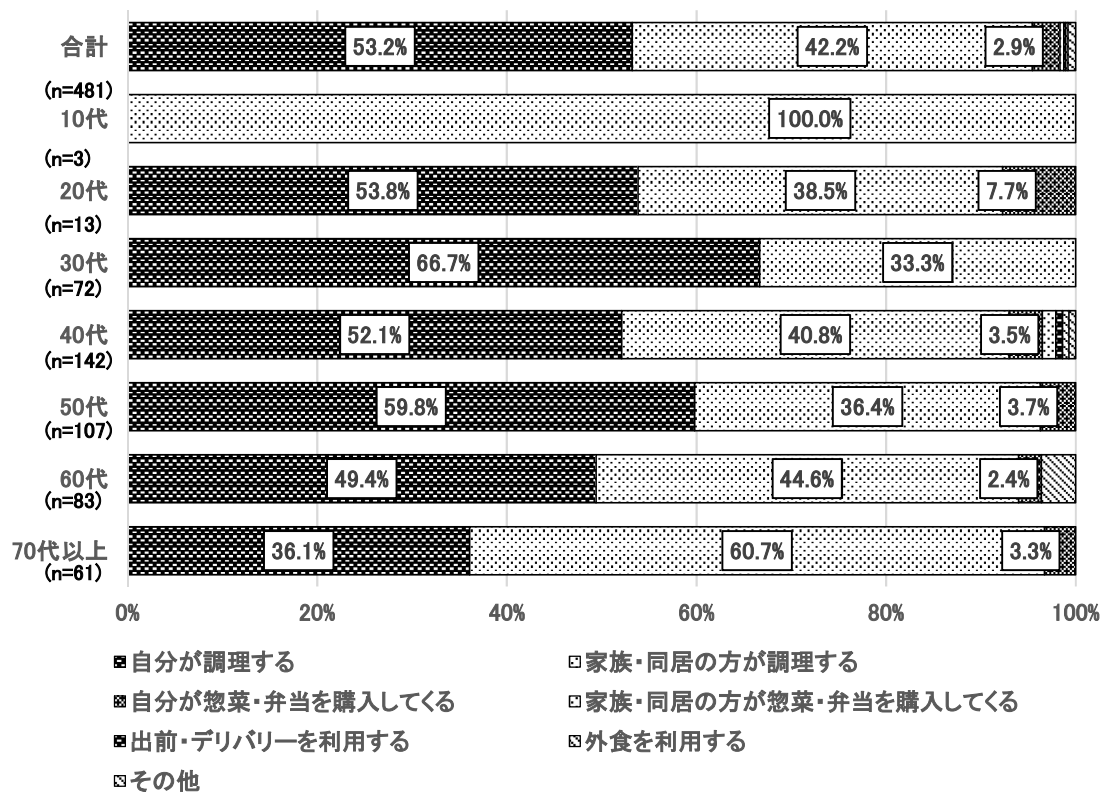
選択肢	男性	女性	計
1 自分が調理する	19.4%	83.5%	53.2%
2 家族・同居の方が調理する	74.0%	13.8%	42.2%
3 自分が惣菜・弁当を購入してくる	4.4%	1.6%	2.9%
4 家族・同居の方が惣菜・弁当を購入してくる	0.0%	0.8%	0.4%
5 出前・デリバリーを利用する	0.4%	0.0%	0.2%
6 外食を利用する	0.4%	0.0%	0.2%
7 その他	1.3%	0.4%	0.8%

・性別で見ると、男性では「家族・同居の方が調理する」が 74.0%と最も高く、女性(13.8%)と比べ 60.2 ポイント高かった。

・女性では「自分が調理する」が 83.5%と最も高く、男性(19.4%)と比べ 64.1 ポイント高かった。

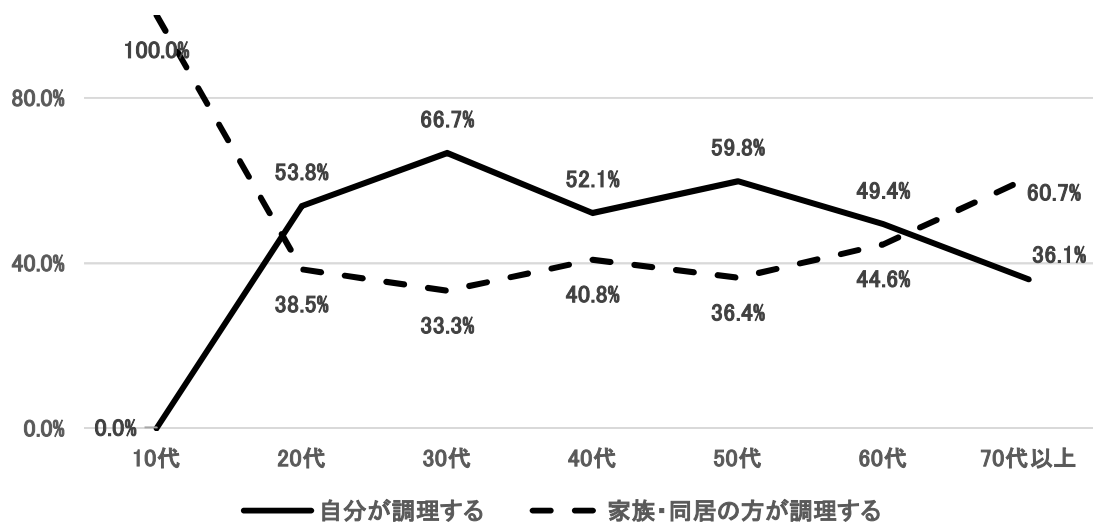
・「自分が惣菜・弁当を購入してくる」は男性が 4.4%と女性(1.6%)と比べ高かった。

### 年代別



選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
1 自分が調理する	0.0%	53.8%	66.7%	52.1%	59.8%	49.4%	36.1%	53.2%
2 家族・同居の方が調理する	100.0%	38.5%	33.3%	40.8%	36.4%	44.6%	60.7%	42.2%
3 自分が惣菜・弁当を購入してくる	0.0%	7.7%	0.0%	3.5%	3.7%	2.4%	3.3%	2.9%
4 家族・同居の方が惣菜・弁当を購入してくる	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
5 出前・デリバリーを利用する	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
6 外食を利用する	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
7 その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	3.6%	0.0%	0.8%

「自分が調理する」、「家族・同居の方が調理する」

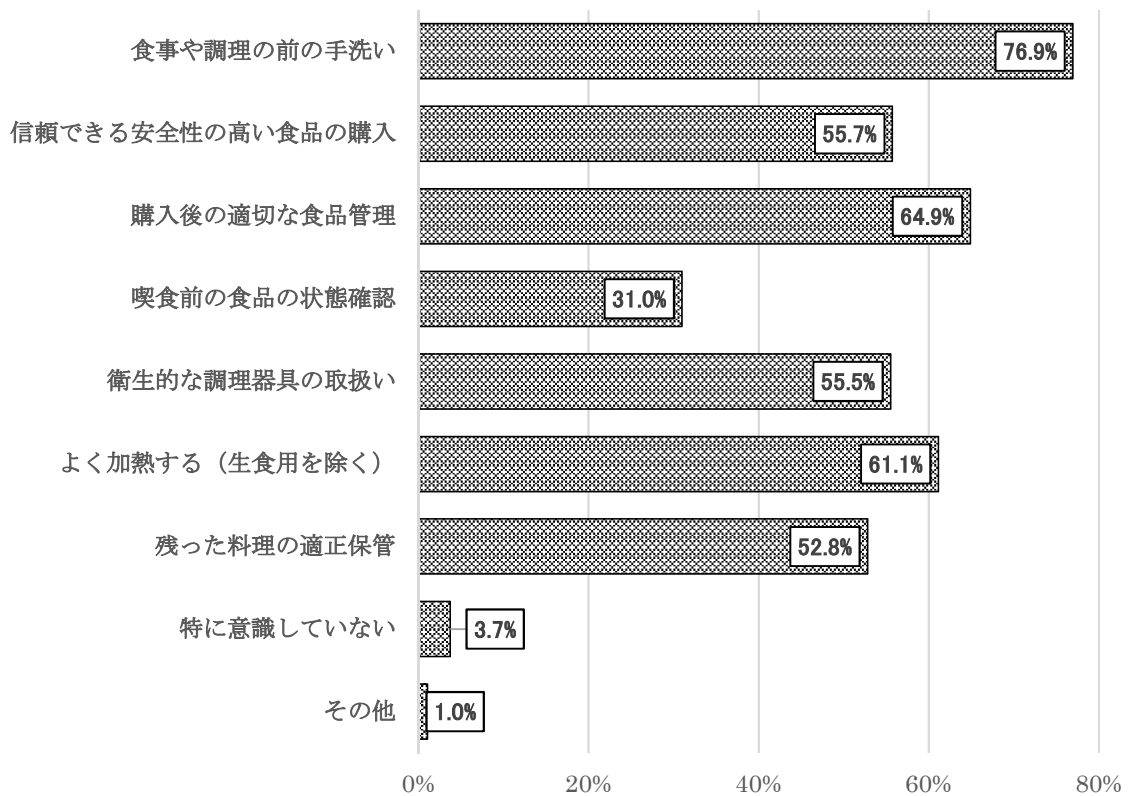


- ・年代別でみると、「自分が調理する」は、30代が66.7%と最も高く、「家族・同居の方が調理する」は、70代以上が60.7%と最も高くなっている。
- ・「自分が惣菜・弁当を購入してくる」は、20代が7.7%と最も高く、50代が3.7%、70代以上が3.3%、40代が3.5%と他の世代と比べ高い傾向がみえた。

\* 10代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問2】あなたは、安全な食生活を送るために、どのようなことを意識していますか。(複数回答可)(n=481)

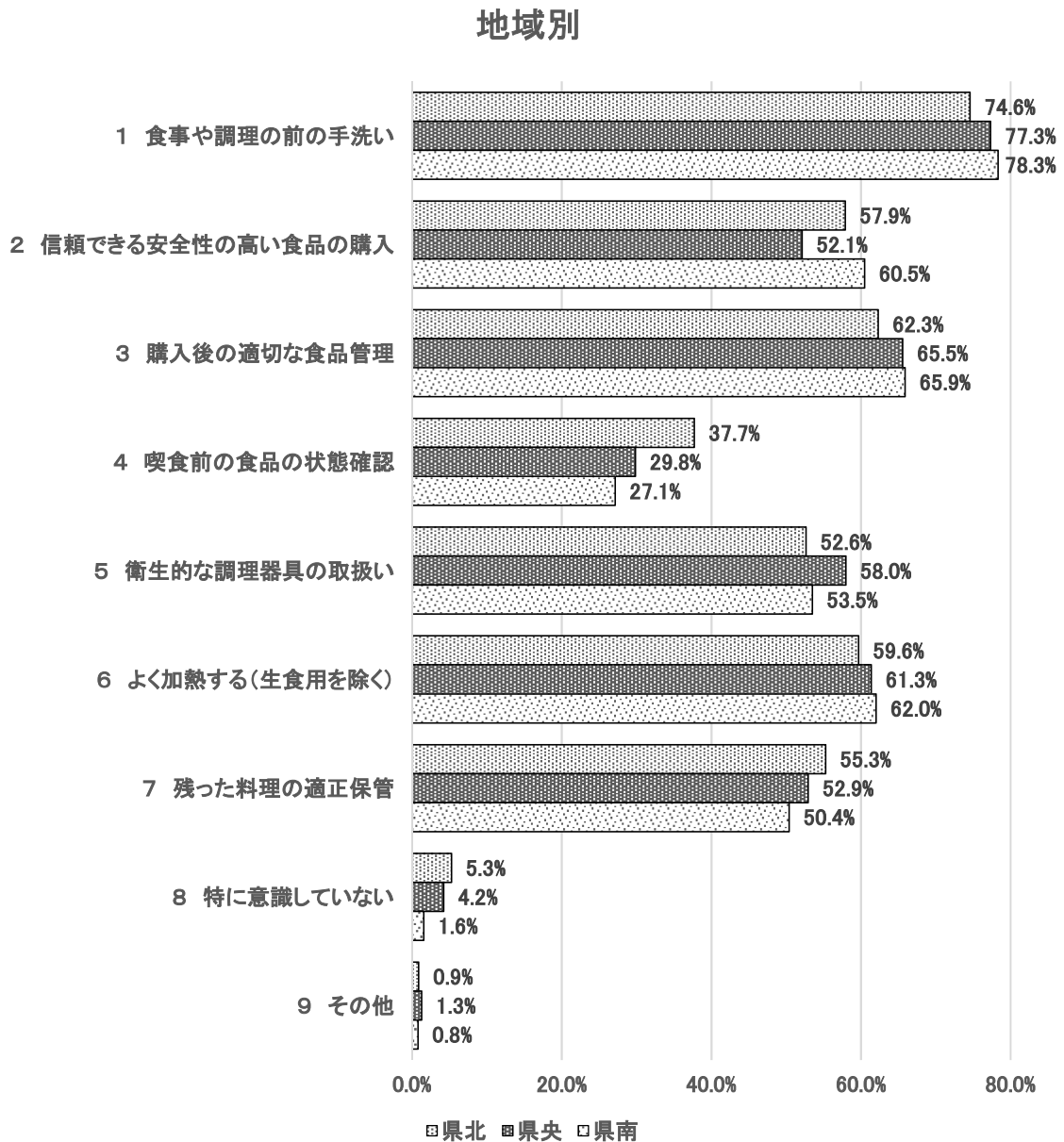
	構成比	回答数
1 食事や調理の前の手洗い	76.9%	370
2 信頼できる安全性の高い食品の購入	55.7%	268
3 購入後の適切な食品管理	64.9%	312
4 喫食前の食品の状態確認	31.0%	149
5 衛生的な調理器具の取扱い	55.5%	267
6 よく加熱する(生食用を除く)	61.1%	294
7 残った料理の適正保管	52.8%	254
8 特に意識していない	3.7%	18
9 その他	1.0%	5



〔その他の主な意見〕

- ・アレルギー疾患を持つ家族がいるので、アレルギー表示を確認している。

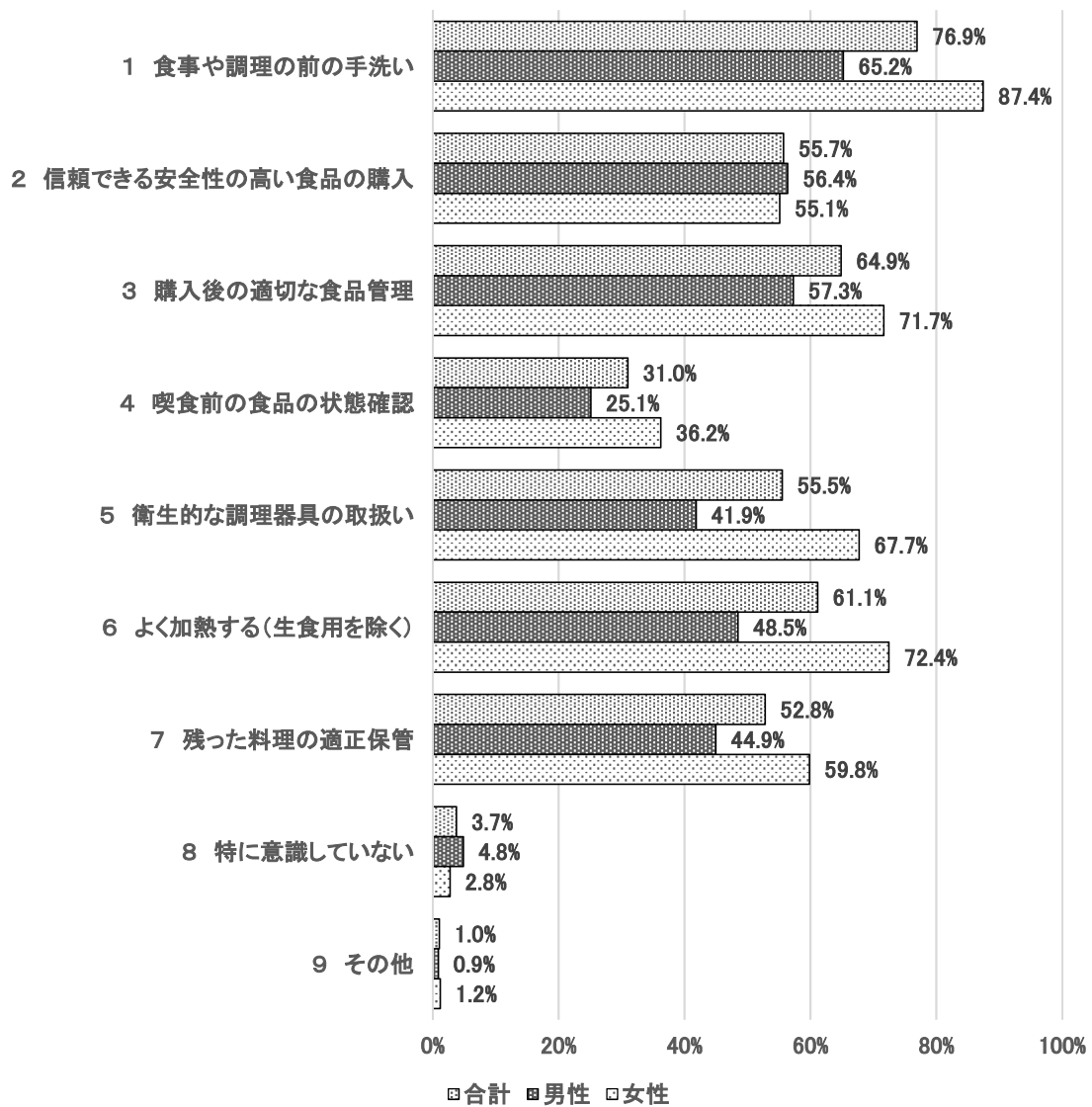
・安全な食生活を送るために、どのようなことを意識していますかについて、全体でみると、「食事や調理の前の手洗い」が 76.9%で最も高く、次いで「購入後の適切な食品管理」(64.9%)、「よく加熱する(生食用を除く)」(61.1%)、「信頼できる安全性の高い食品の購入」(55.7%)、「衛生的な調理器具の取扱い」(55.5%)、「残った料理の適正保管」(52.8%)の順となった。



・地域別でみると、県北地区では「喫食前の食品の状態確認」が 37.7%と、県南地区の 27.1%、県央地区の 29.8%と比べ高かった。

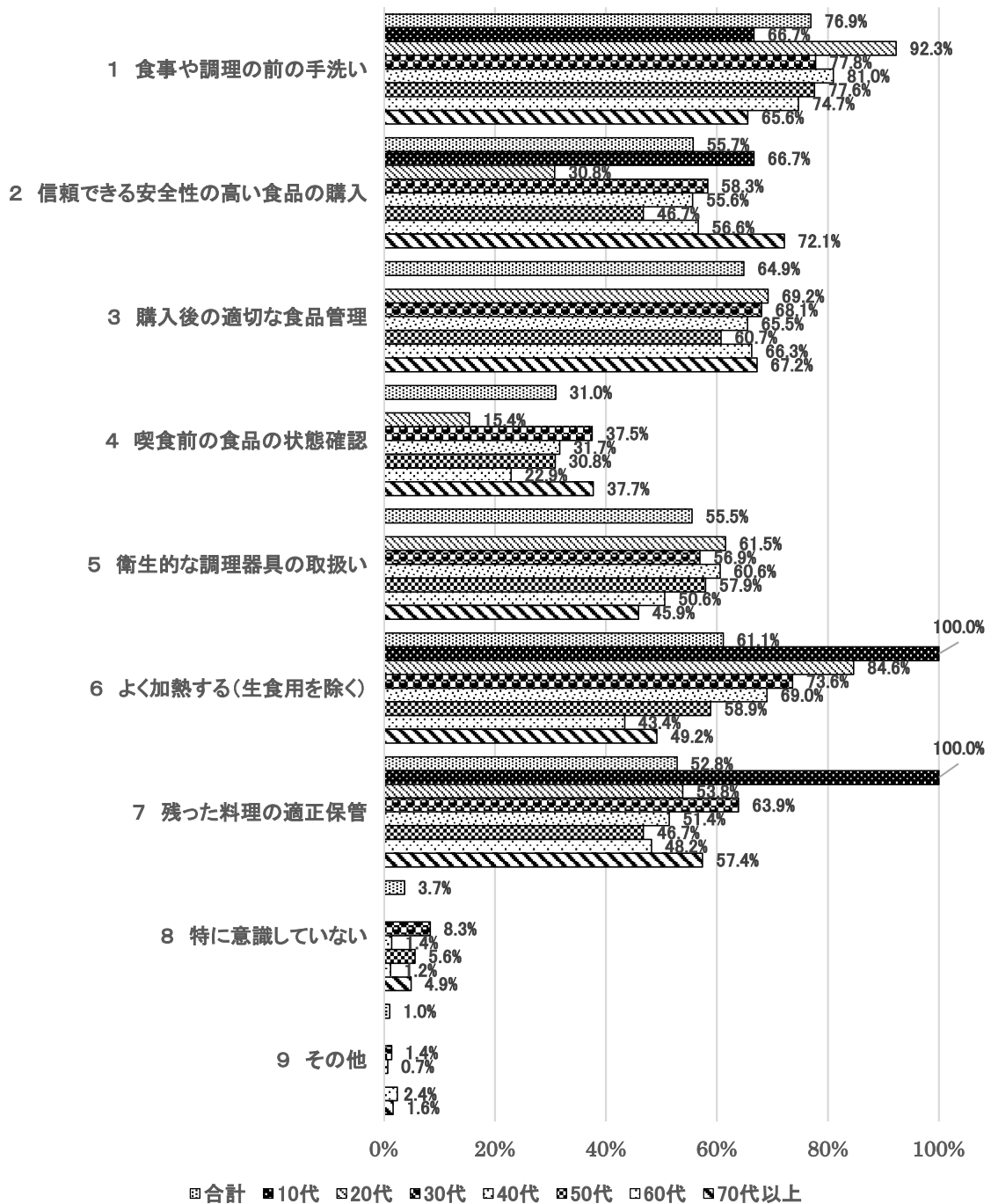


## 性別



- ・性別でみると、「食事や調理の前の手洗い」が男性(65.2%)、女性(87.4%)とも最も高かった。
- ・女性では「衛生的な調理器具の取扱い」が67.7%と男性(41.9%)と比べ25.8ポイント高く、「よく加熱する(生食用を除く)」が72.4%と男性(48.5%)と比べ23.9ポイント、「食事や調理の前の手洗い」が87.4%と男性(65.2%)と比べ22.2ポイント高かった。

## 年代別



・年代別でみると「食事や調理の前の手洗い」は20代が92.3%と最も高かった。

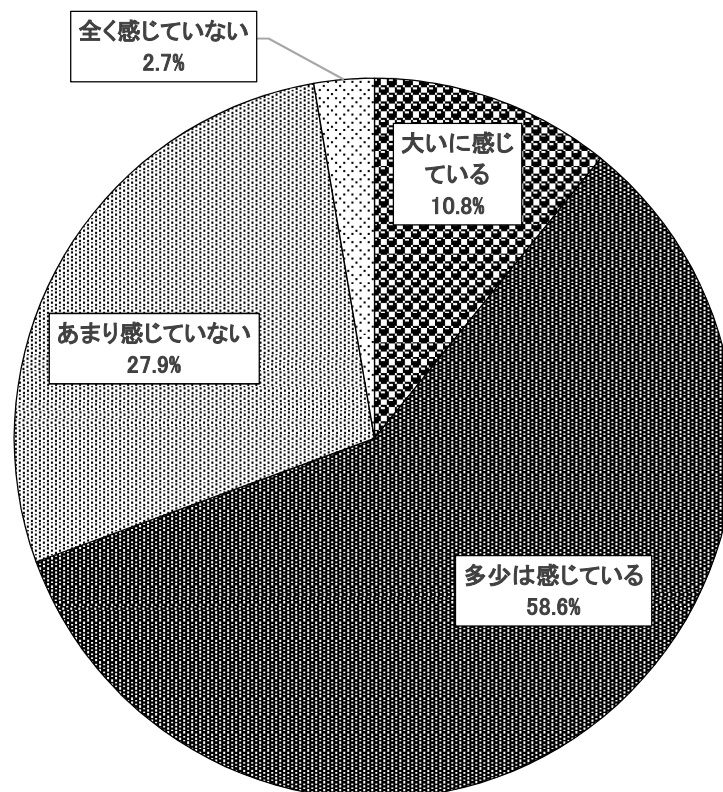
・「喫食前の食品の状態確認」は20代が15.4%、30代が37.5%、40代が31.7%、50代が30.8%、60代が22.9%、70代が37.7%と低い傾向がみえた。

\*10代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

**【問3】** あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。

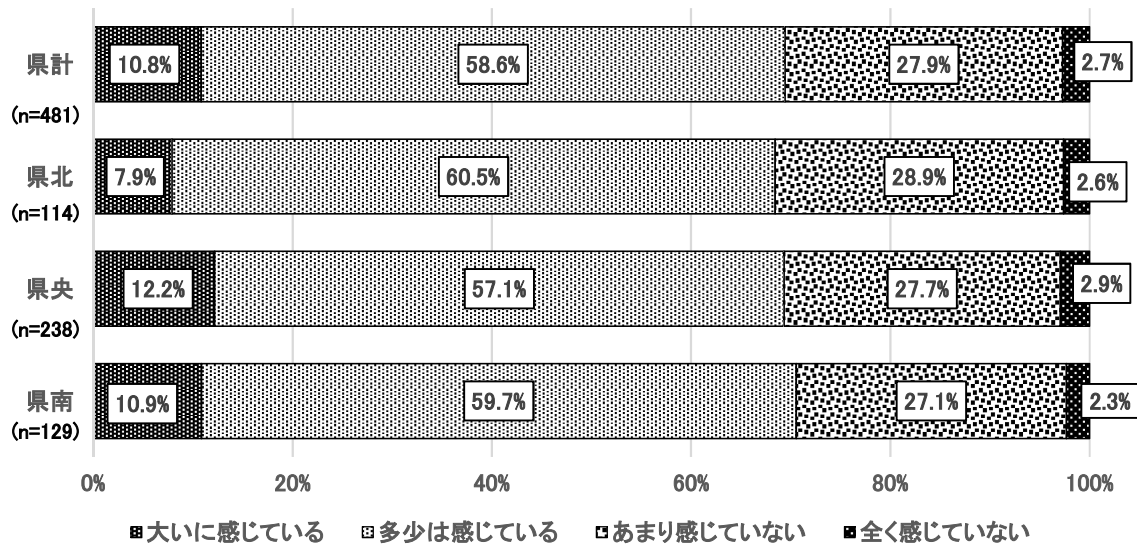
(n=481)

	構成比	回答数
1 大いに感じている	10.8%	52
2 多少は感じている	58.6%	282
3 あまり感じていない	27.9%	134
4 全く感じていない	2.7%	13



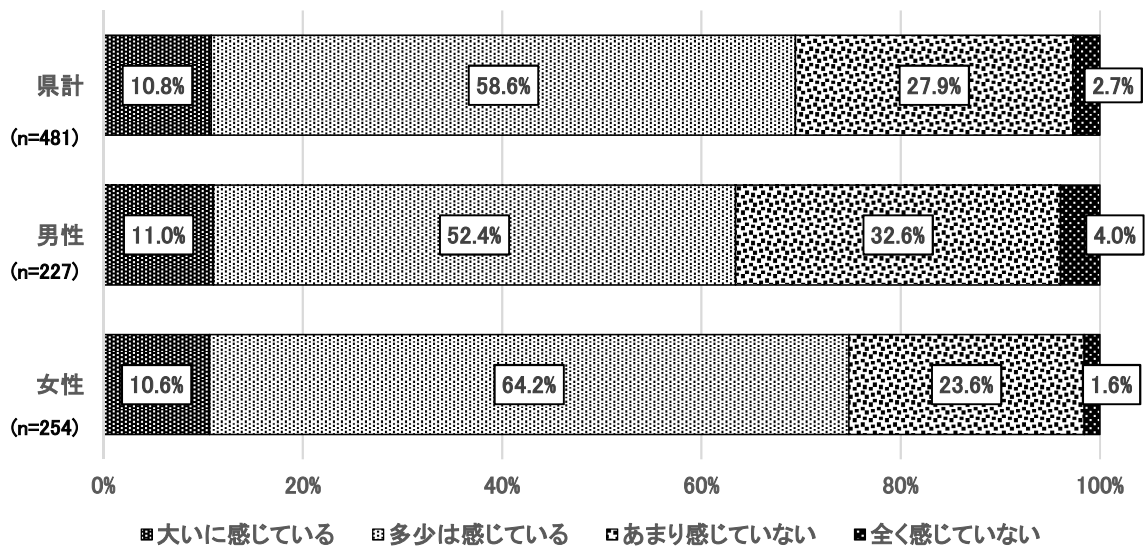
- ・食の安全について、全体で見ると「多少は感じている」が58.6%で最も多く、次いで「あまり感じていない」が27.9%、「大いに感じている」が10.8%、「全く感じていない」が2.7%であった。
- ・食の安全について、「大いに感じている」と「多少は感じている」の2つを合わせた「感じている」は 69.4%であった。また、「あまり感じていない」と「全く感じていない」の2つを合わせた「感じていない」は、30.6%であった。

## 地域別



・地域別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

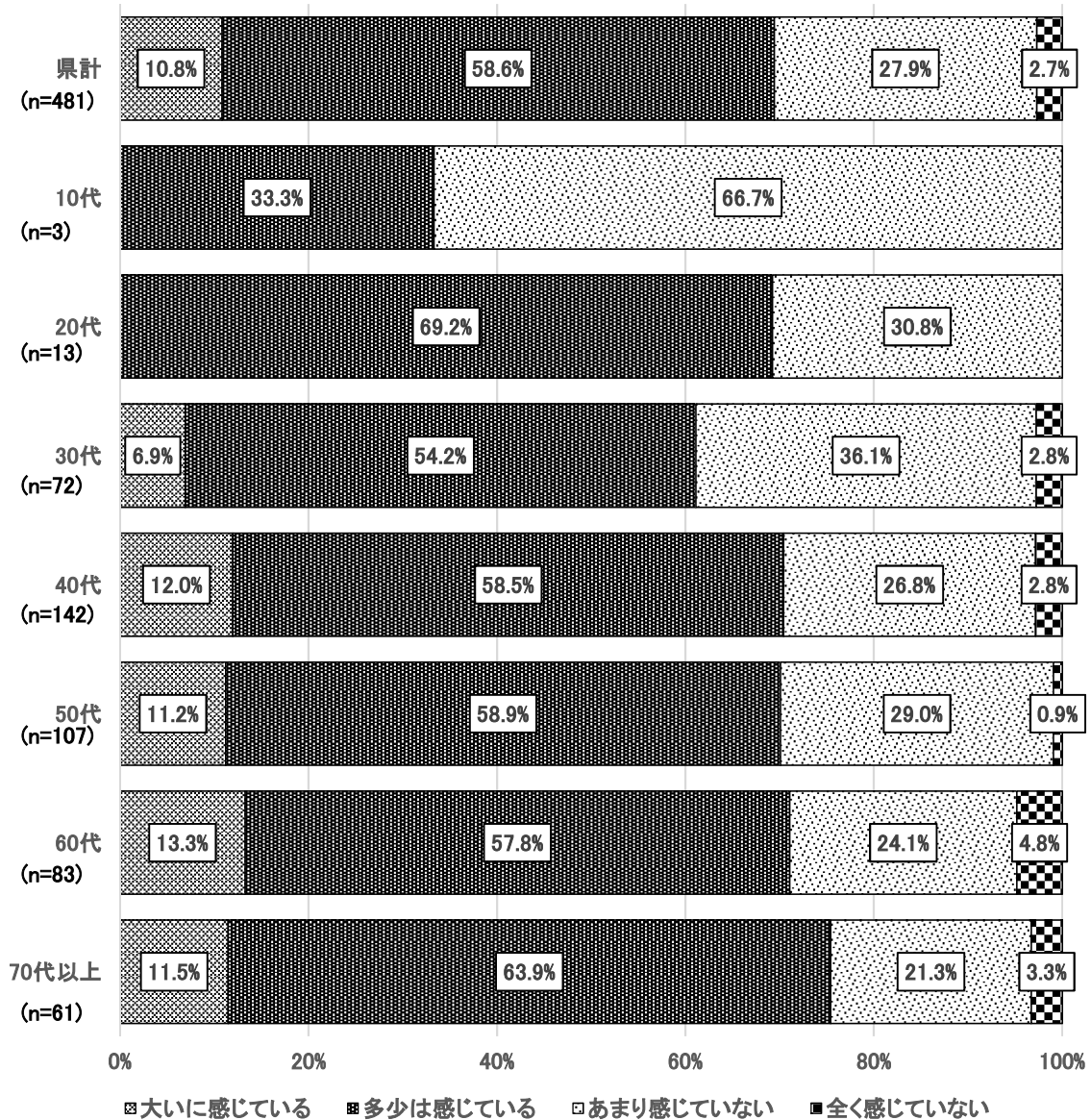
## 性別



・性別でみると、男性で「あまり感じていない」、「全く感じていない」の2つを合わせて36.6%と、女性(25.2%)と比べ 11.4 ポイント高かった。

・女性で「大いに感じている」、「多少は感じている」の2つを合わせて 74.8%と、男性(36.6%)と比べ 11.4 ポイント高かった。

## 年代別



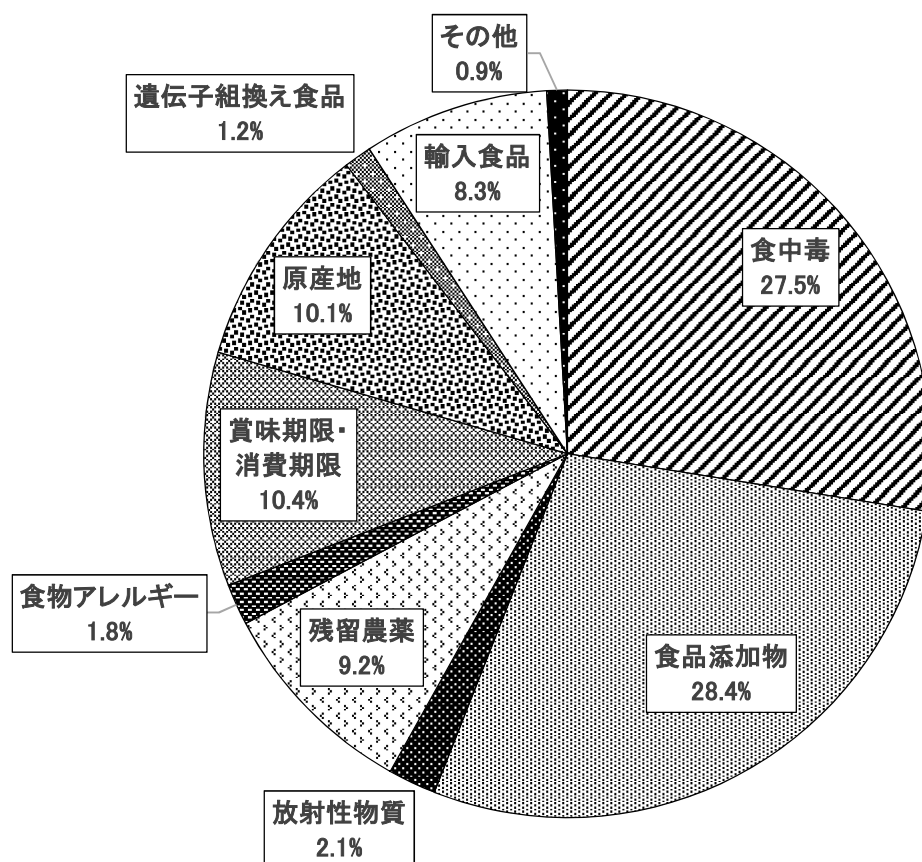
- ・年代別でみると、「大いに感じている」は、60代が13.3%と最も高くなっている。
- ・70代以上は「大いに感じている」、「多少は感じている」の2つを合わせて75.4%と最も高かった。
- ・30代は「あまり感じていない」、「全く感じていない」の2つを合わせて38.9%と最も高かった。

\* 10代、20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

(【問3】で選択肢1、2を選んだ方にお聞きします。)

【問4】あなたは、食品の安全性のどのような部分に不安を感じていますか。一番あてはまるものを選んでください。(n=327)

	構成比	回答数
1 食中毒	27.5%	90
2 食品添加物	28.4%	93
3 放射性物質	2.1%	7
4 残留農薬	9.2%	30
5 食物アレルギー	1.8%	6
6 賞味期限・消費期限	10.4%	34
7 原産地	10.1%	33
8 遺伝子組換え食品	1.2%	4
9 輸入食品	8.3%	27
10 その他	0.9%	3

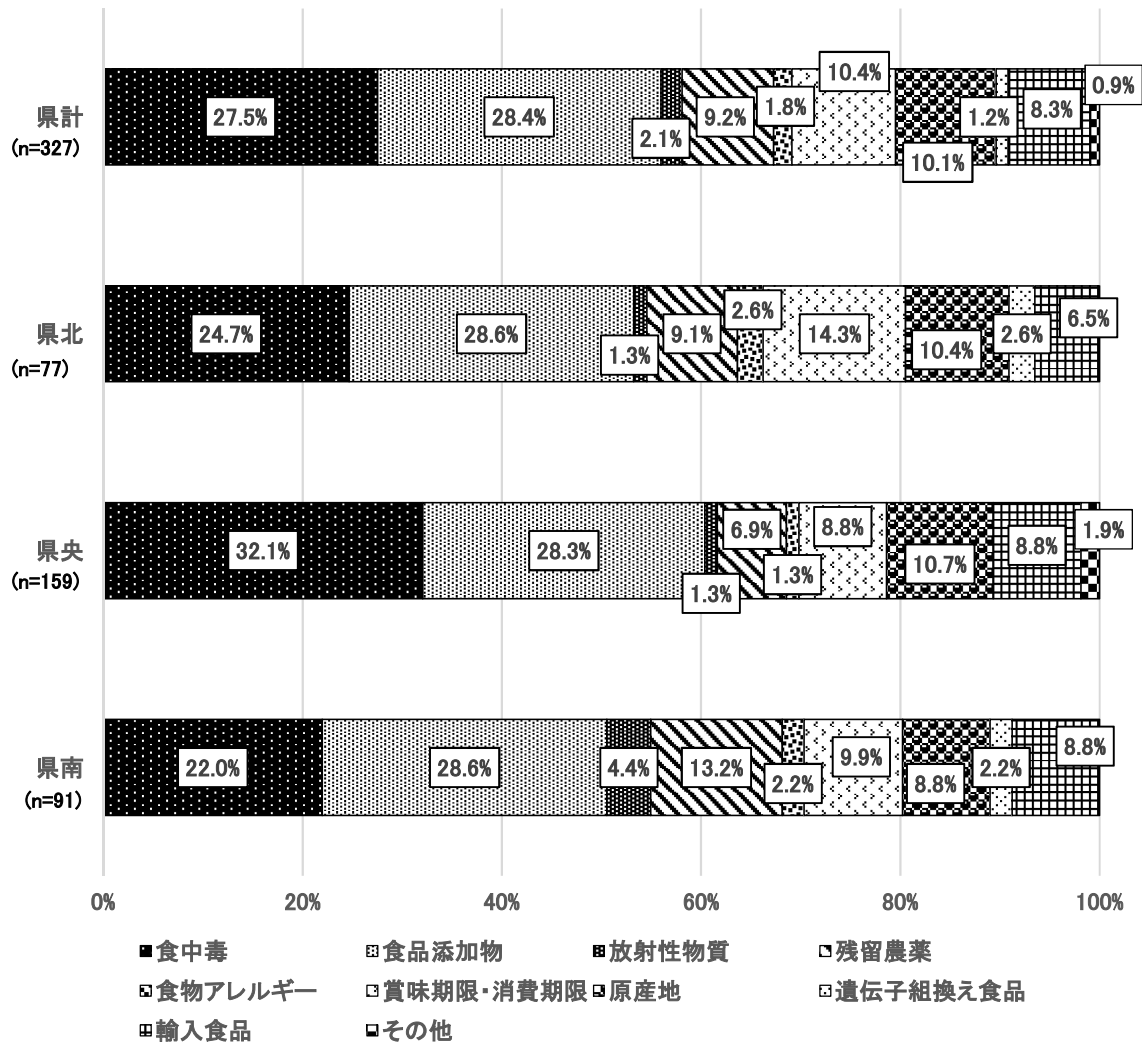


〔その他の主な意見〕

・環境破壊の影響による食品の安全性

・食食品の安全性のどのような部分に不安を感じているかについて、全体でみると、「食品添加物」が28.4%で最も高く、次いで「食中毒」(27.5%)、「消費期限・賞味期限」(10.4%)、「原産地」(10.1%)の順となった。

地域別

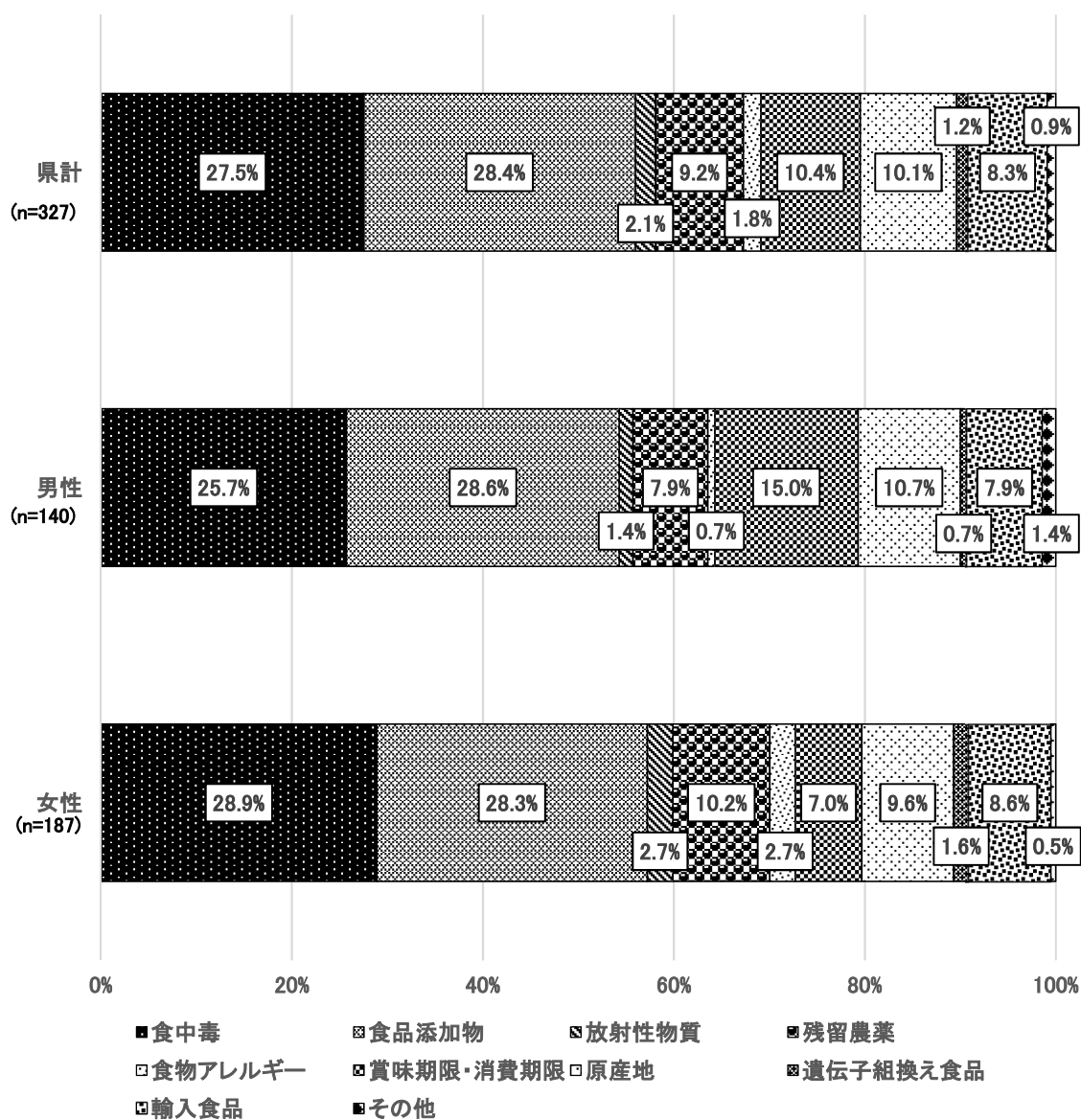


・地域別でみると、県北地区では「賞味期限・消費期限」が14.3%と、県央地区の8.8%、県南地区の9.9%と比べ高かった。

・県央地区では「食中毒」が32.1%と、県北地区の24.7%、県南地区の22.0%と比べ高かった。

・県南地区では「残留農薬」が13.2%と、県北地区の9.1%、県央地区の6.9%と比べ高かった。

## 性別

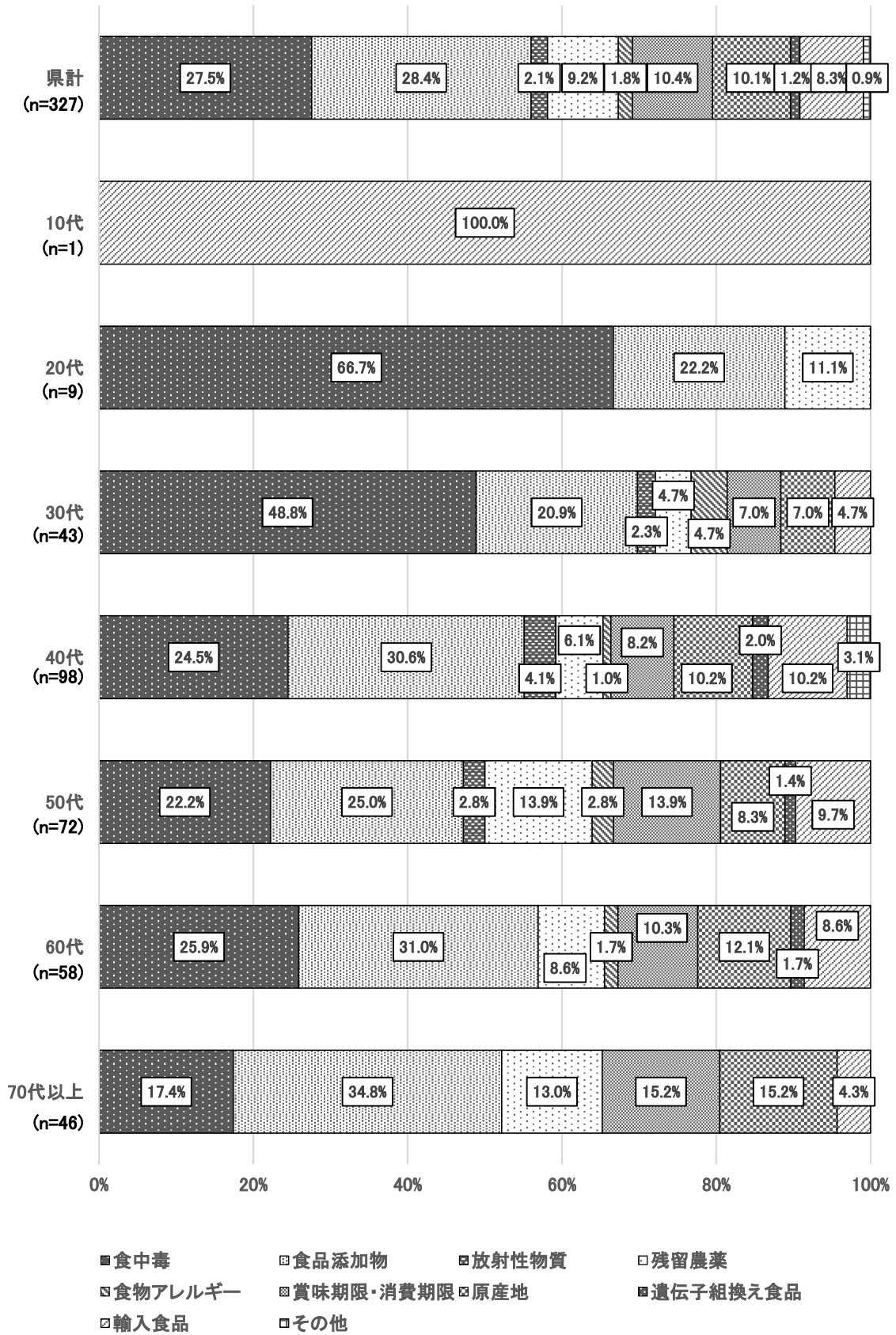


・性別でみると、女性で「食中毒」が 28.9%と、男性(25.7%)と比べ 3.2 ポイント高かった。

・男性では「賞味期限・消費期限」が 15.0%と、女性(7.0%)と比べ 8.0 ポイント高かった。



## 年代別



- ・年代別でみると「食中毒」は、30代が48.8%と他の世代と比べ高かった。
- ・「食品添加物」は、70代以上が34.8%、60代が31.0%、50代が25.0%、40代が30.6%、30代が20.9%とすべての世代で高かった。
- ・「賞味期限・消費期限」は、70代以上で15.2%と他の世代と比べ高かった。

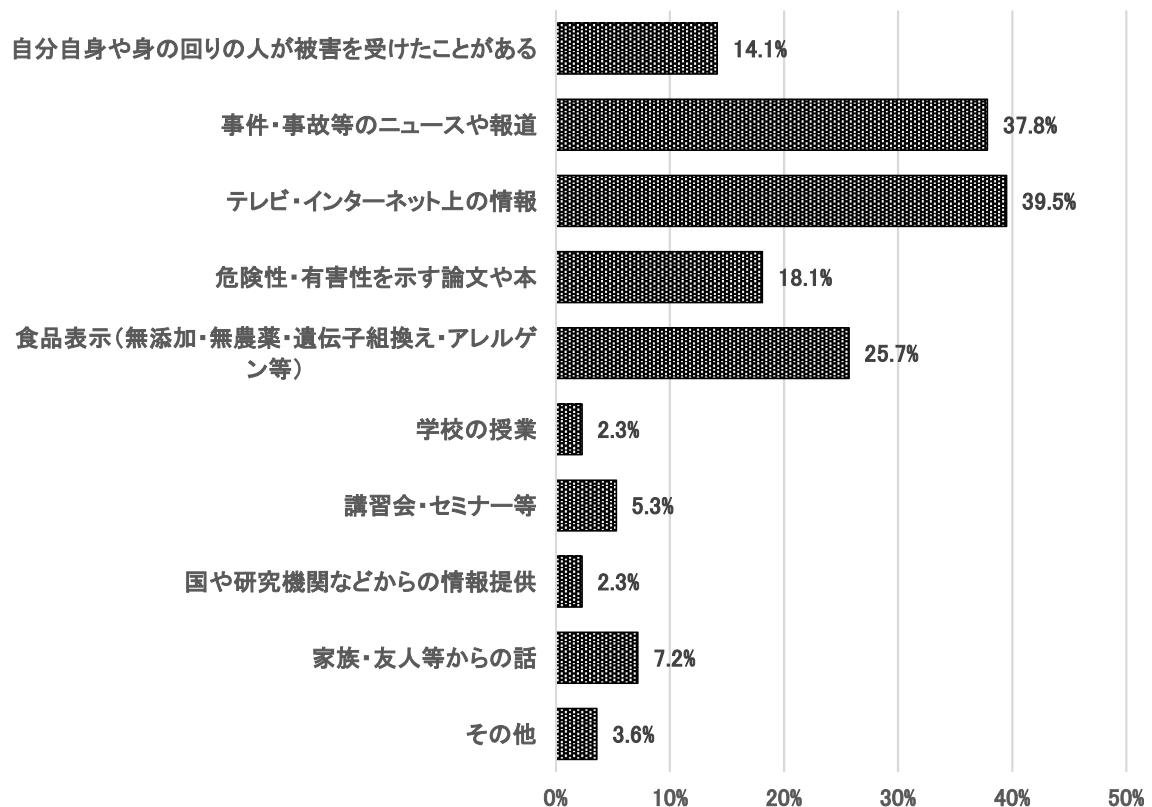
\* 10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

(問3で選択肢1, 2を選んだ方にお聞きます。)

**【問5】**あなたが、問4で選んだ項目について、不安を感じたきっかけとなった事柄は何ですか。

(2つまで回答)(n=304)

	構成比	回答数
1 自分自身や身の回りの人が被害を受けたことがある	14.1%	43
2 事件・事故等のニュースや報道	37.8%	115
3 テレビ・インターネット上の情報	39.5%	120
4 危険性・有害性を示す論文や本	18.1%	55
5 食品表示(無添加・無農薬・遺伝子組換え・アレルギー等)	25.7%	78
6 学校の授業	2.3%	7
7 講習会・セミナー等	5.3%	16
8 国や研究機関などからの情報提供	2.3%	7
9 家族・友人等からの話	7.2%	22
10 その他	3.6%	11

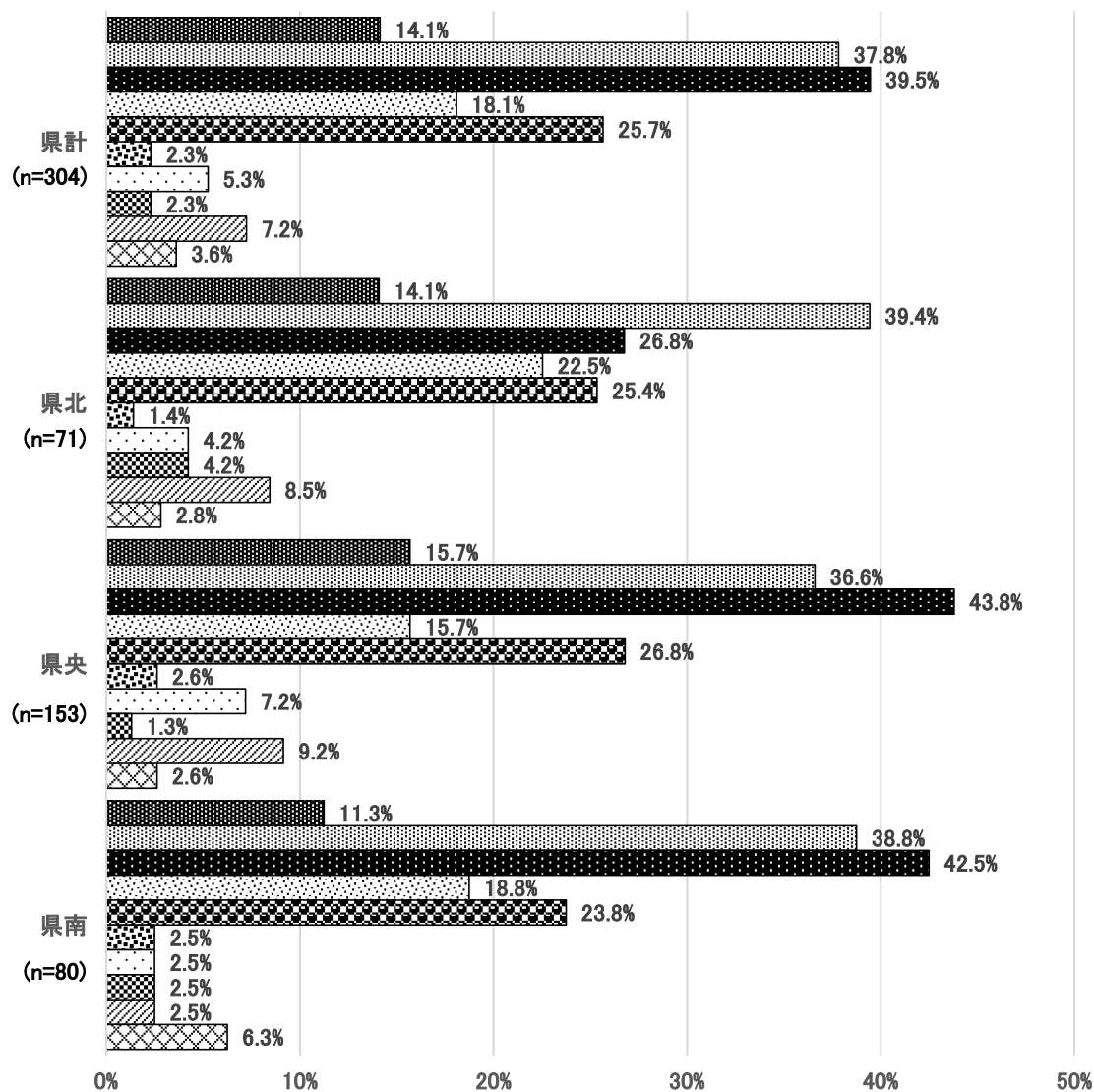


[その他の意見]

・子どもが生まれてから、子供の食べものに気をつける様になった。

・不安を感じたきっかけとなった事柄について、全体で見ると、「テレビ・インターネット上の情報」が39.5%で最も高く、次いで「事件・事故等のニュースや報道」(37.8%)であった。

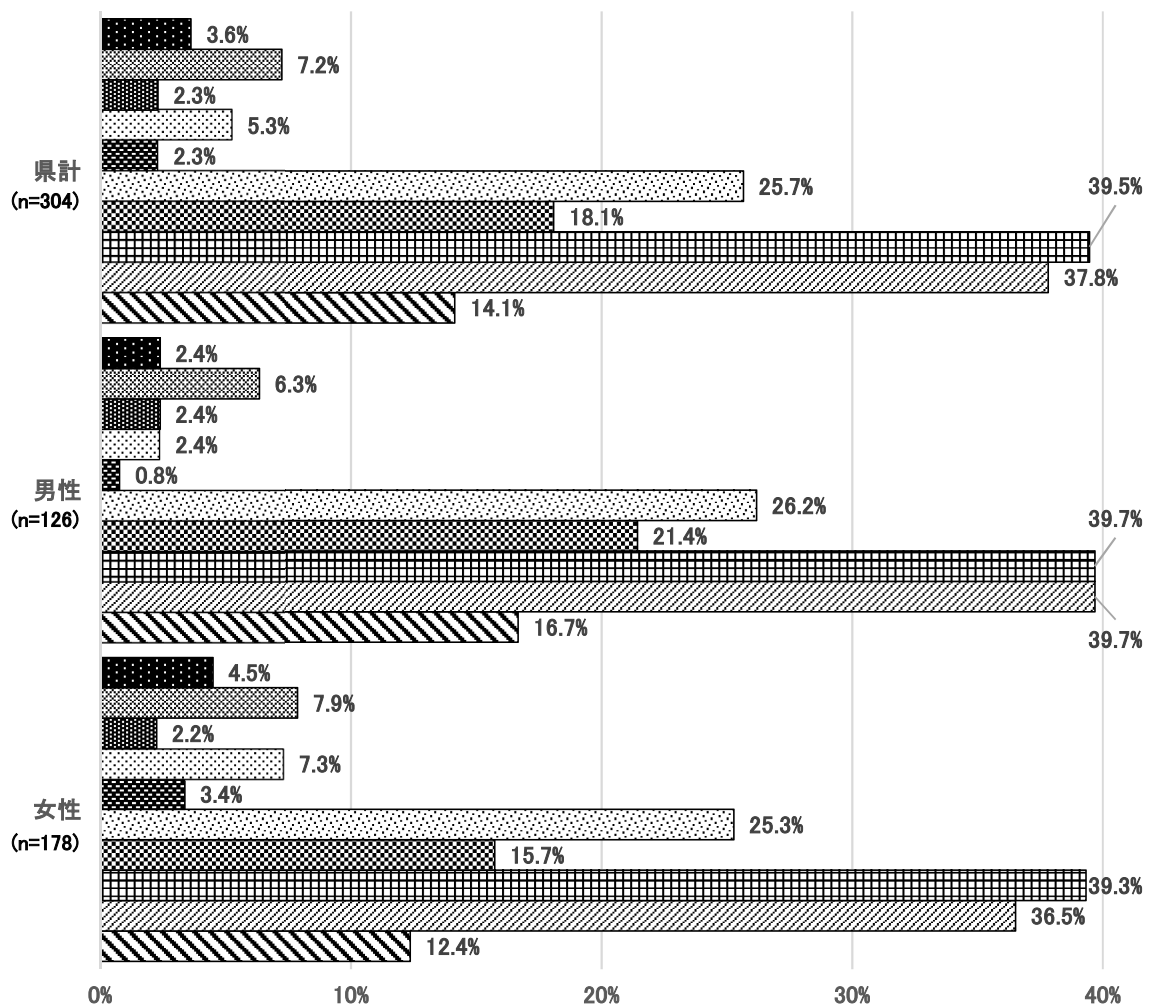
### 地域別



- 自分自身や身の回りの人が被害を受けたことがある
- 事件・事故等のニュースや報道
- テレビ・インターネット上の情報
- 危険性・有害性を示す論文や本
- 食品表示(無添加・無農薬・遺伝子組換え・アレルギー等)
- 学校の授業
- 講習会・セミナー等
- 国や研究機関などからの情報提供
- 家族・友人等からの話
- その他

- ・地域別でみると、県北地区では「テレビ・インターネット上の情報」が 26.8%と、県央地区の 43.8%、県南地区の 42.5%と比べ低かった。
- ・県北地区では「危険性・有害性を示す論文や本」が 22.5%と、県央地区の 15.7%、県南地区の 18.8%と比べ高かった。

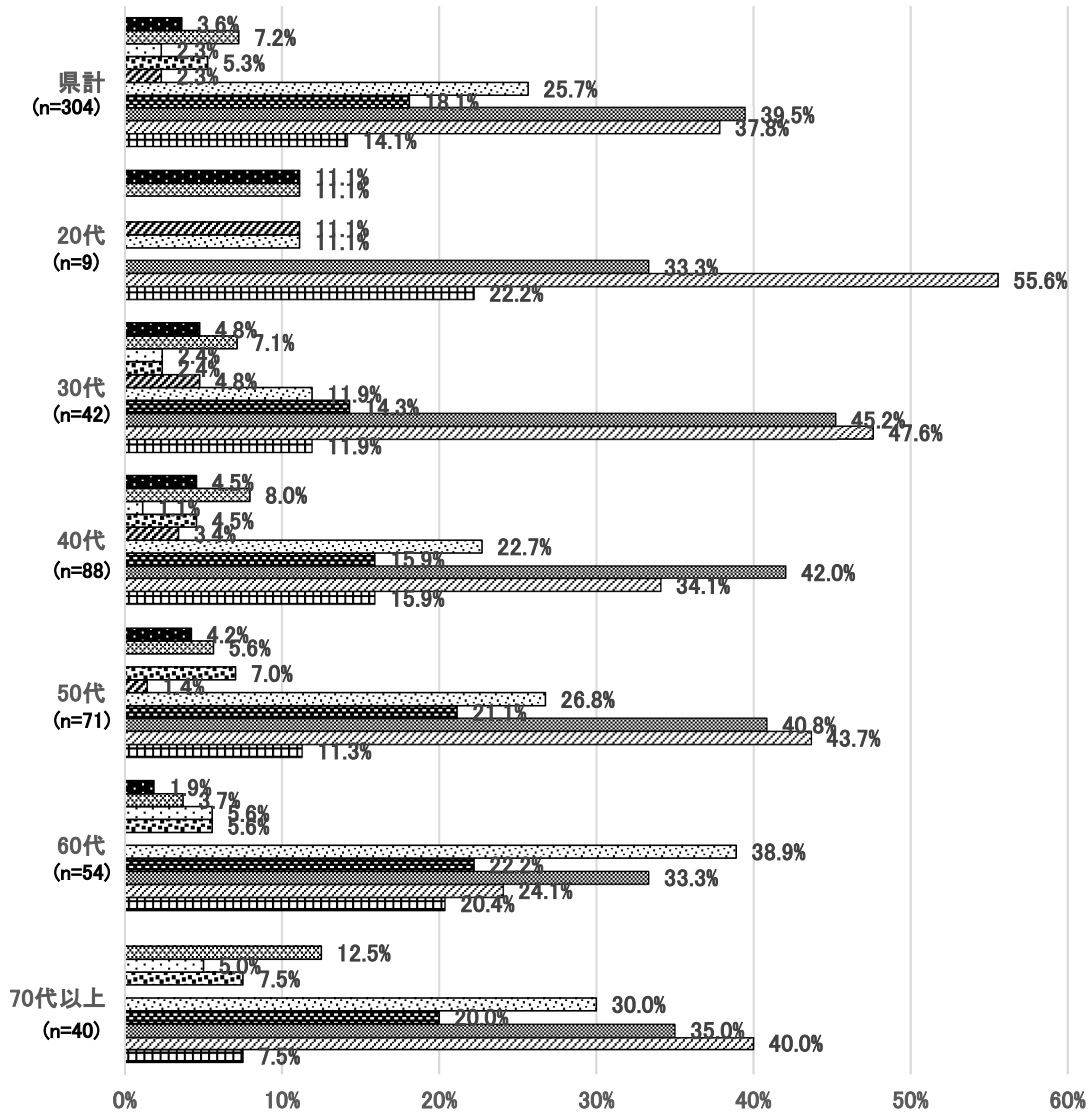
## 性別



- その他
- ▣ 家族・友人等からの話
- ▤ 国や研究機関などからの情報提供
- ▥ 講習会・セミナー等
- ▧ 学校の授業
- ▨ 食品表示(無添加・無農薬・遺伝子組換え・アレルギー等)
- ▩ 危険性・有害性を示す論文や本
- テレビ・インターネット上の情報
- 事件・事故等のニュースや報道
- ▬ 自分自身や身の回りの人が被害を受けたことがある

- ・性別でみると、男性では「危険性・有害性を示す論文や本」が 21.4%と、女性(15.7%)と比べ 5.7 ポイント高かった。
- ・女性では「講習会・セミナー等」が 7.3%と、男性(2.4%)と比べ 4.9 ポイント高かった。

### 年代別



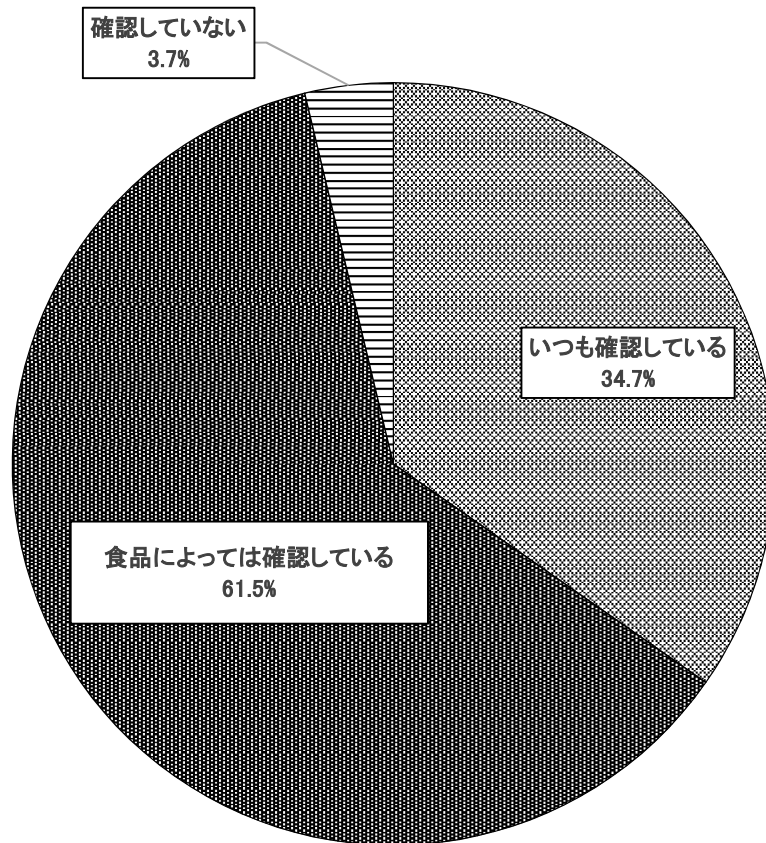
- その他
- ▣ 家族・友人等からの話
- 国や研究機関などからの情報提供
- ▣ 講習会・セミナー等
- ▣ 学校の授業
- ▣ 食品表示(無添加・無農薬・遺伝子組換え・アレルギー等)
- 危険性・有害性を示す論文や本
- ▣ テレビ・インターネット上の情報
- ▣ 事件・事故等のニュースや報道
- ▣ 自分自身や身の回りの人が被害を受けたことがある

- ・年代別でみると「価格」は、30代(87.5%)が全世代の中で最も高かった。
- ・「原産地・原産国」は、30代(37.5%)が世代中で最も高かった。
- ・「賞味期限・消費期限などの日付け表示」は、30代が33.3%、40代が36.1%、50代が50.0%、60代が59.2%、70代以上が65.3%と年代を増すごとに高くなっている。

\*10代は、回答者がいませんでした。また、20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問6】あなたは、食品を購入するときに、食品の表示を確認していますか。(n=481)

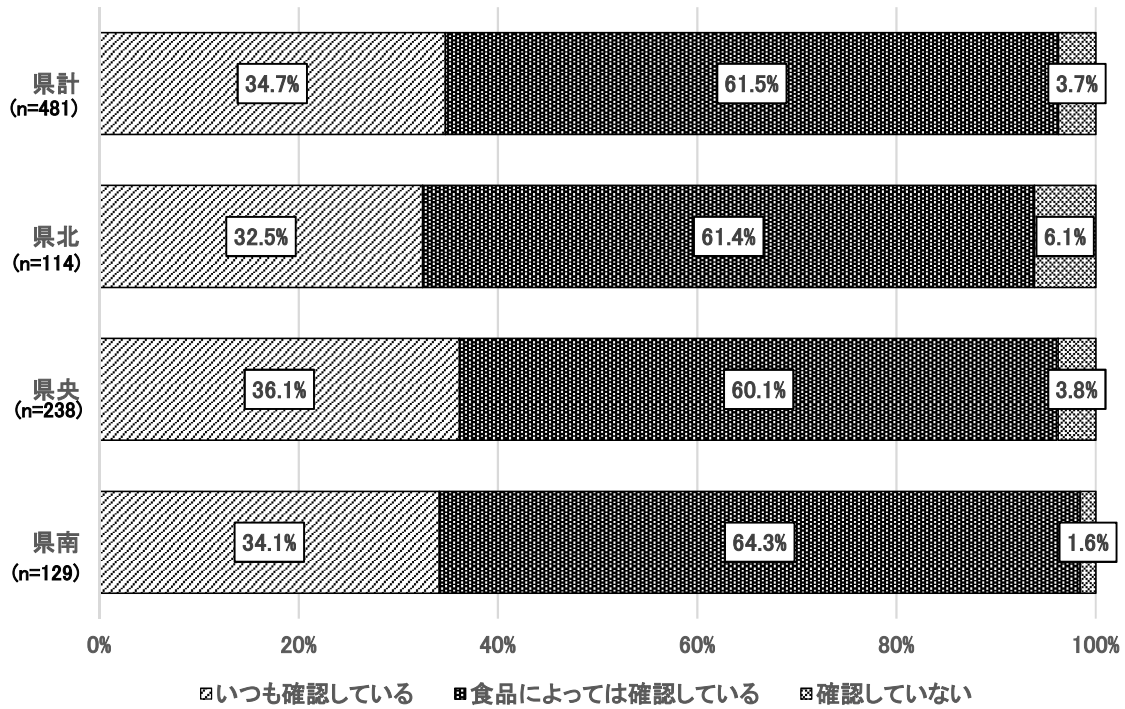
	構成比	回答数
1 いつも確認している	34.7%	167
2 食品によっては確認している	61.5%	296
3 確認していない	3.7%	18



・食品を購入する際の食品の表示の確認について、全体でみると「食品によっては確認している」が 61.5%、「いつも確認している」が 34.7%、「確認していない」が 3.7%であった。

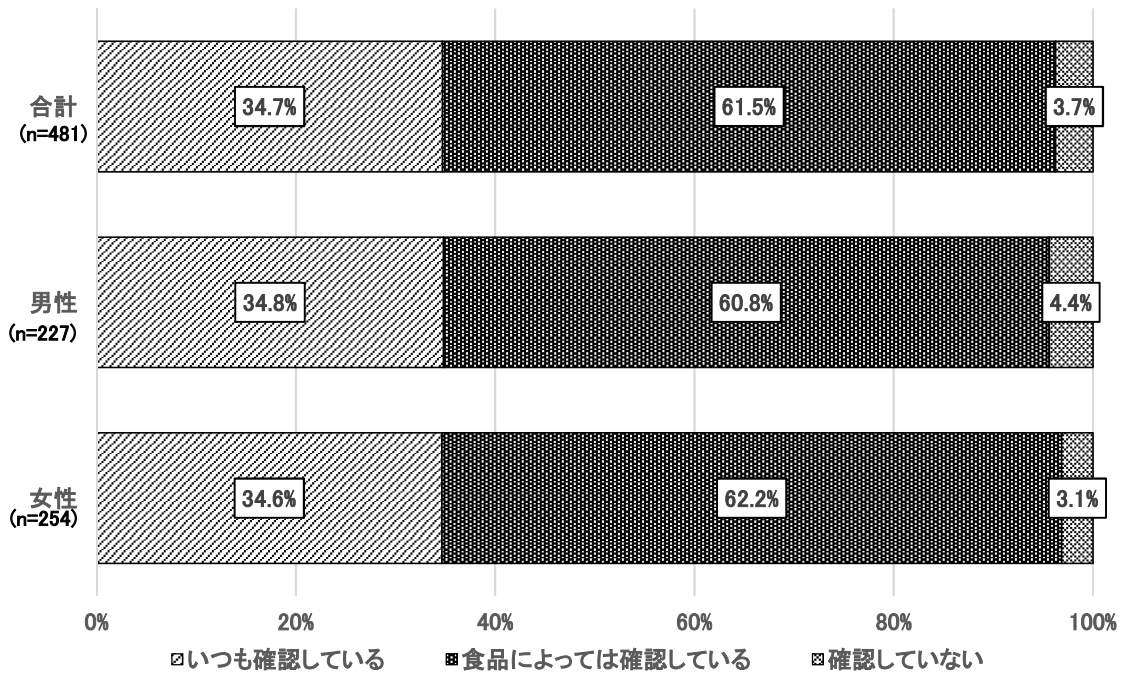


## 地域別



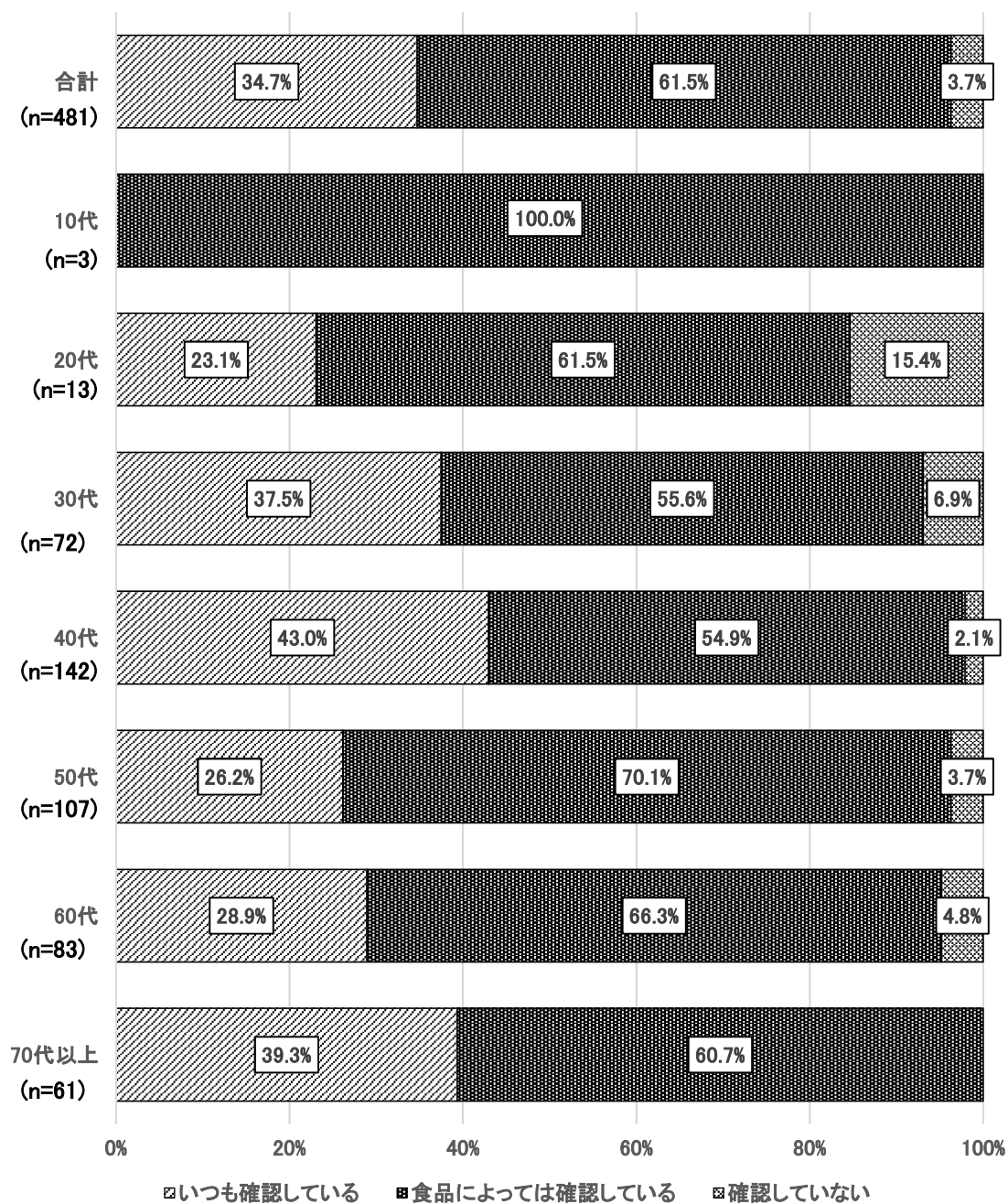
・地域別でみると、県北地区では「確認していない」が 6.1%と、県央地区の 3.8%、県南地区の 1.6%と比べ高かった。

## 性別



・性別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

## 年代別



・年代別でみると「食品によっては確認している」は、50代が70.1%、60代が66.3%、70代以上が60.7%と他の世代と比べ高かった。

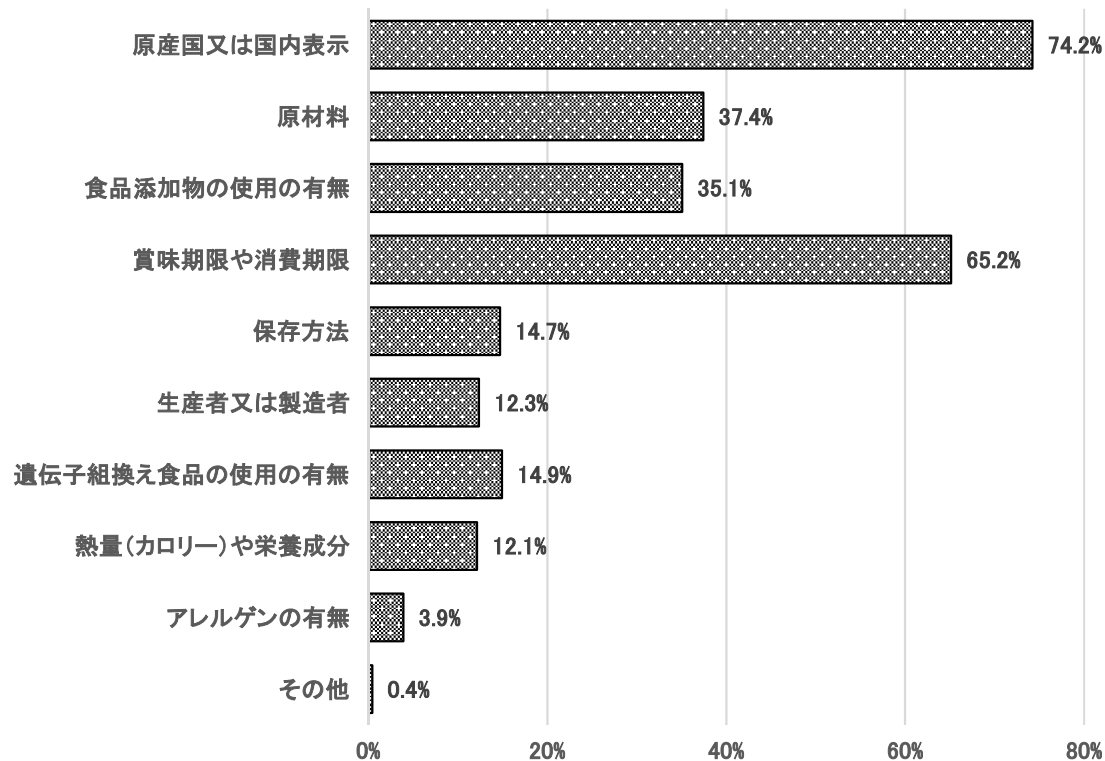
・「確認していない」は、70代以上が回答した者がいなかった。

\* 10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問7】(問6で選択肢1, 2を選んだ方にお聞きします。)

あなたは、食品の表示を確認するときに、どのような項目が重要だと思いますか。(3つまで回答)(n=462)

	構成比	回答数
1 原産国又は国内表示	74.2%	343
2 原材料	37.4%	173
3 食品添加物の使用の有無	35.1%	162
4 賞味期限や消費期限	65.2%	301
5 保存方法	14.7%	68
6 生産者又は製造者	12.3%	57
7 遺伝子組換え食品の使用の有無	14.9%	69
8 熱量(カロリー)や栄養成分	12.1%	56
9 アレルゲンの有無	3.9%	18
10 その他	0.4%	2

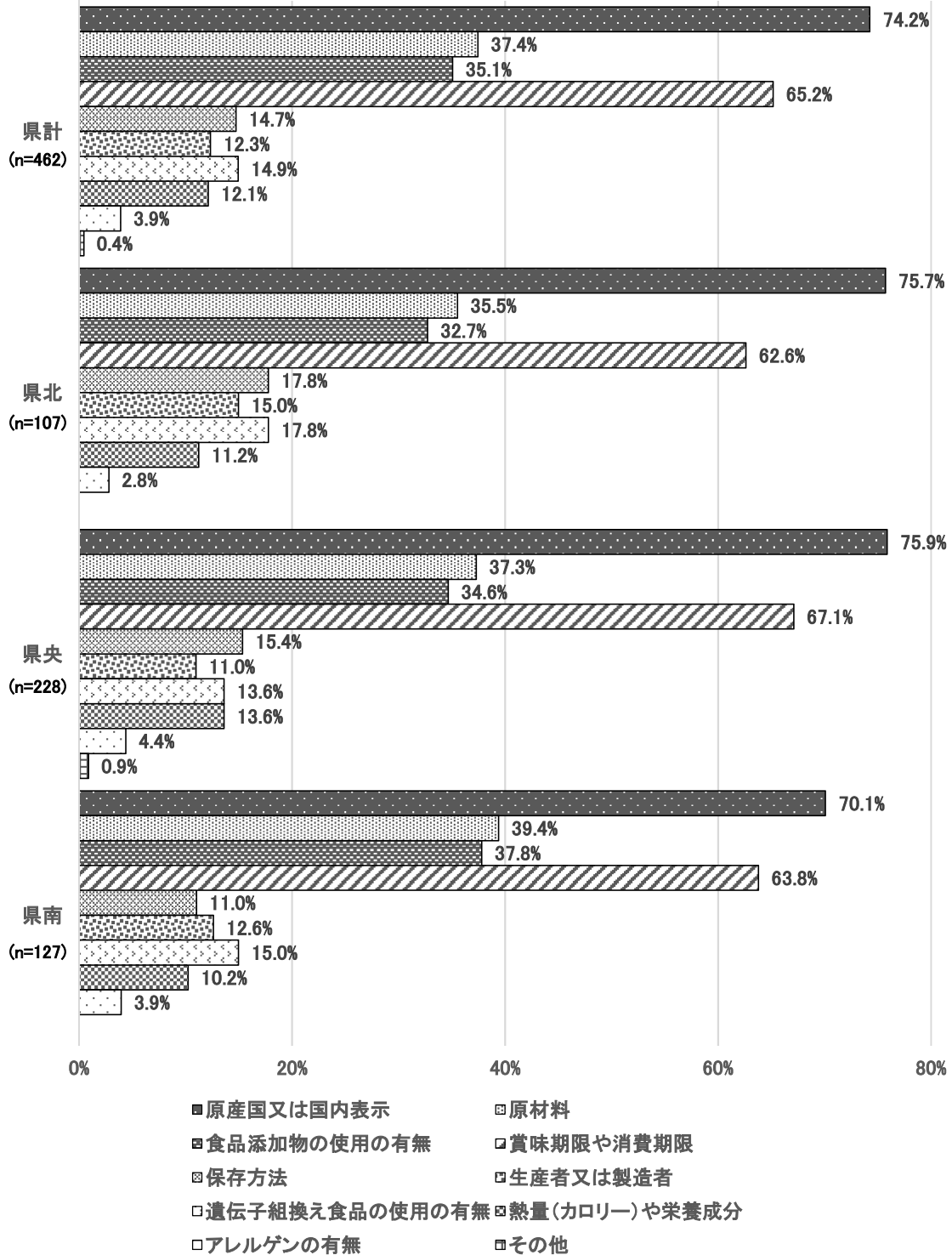


〔その他の意見〕

・有機栽培の表示

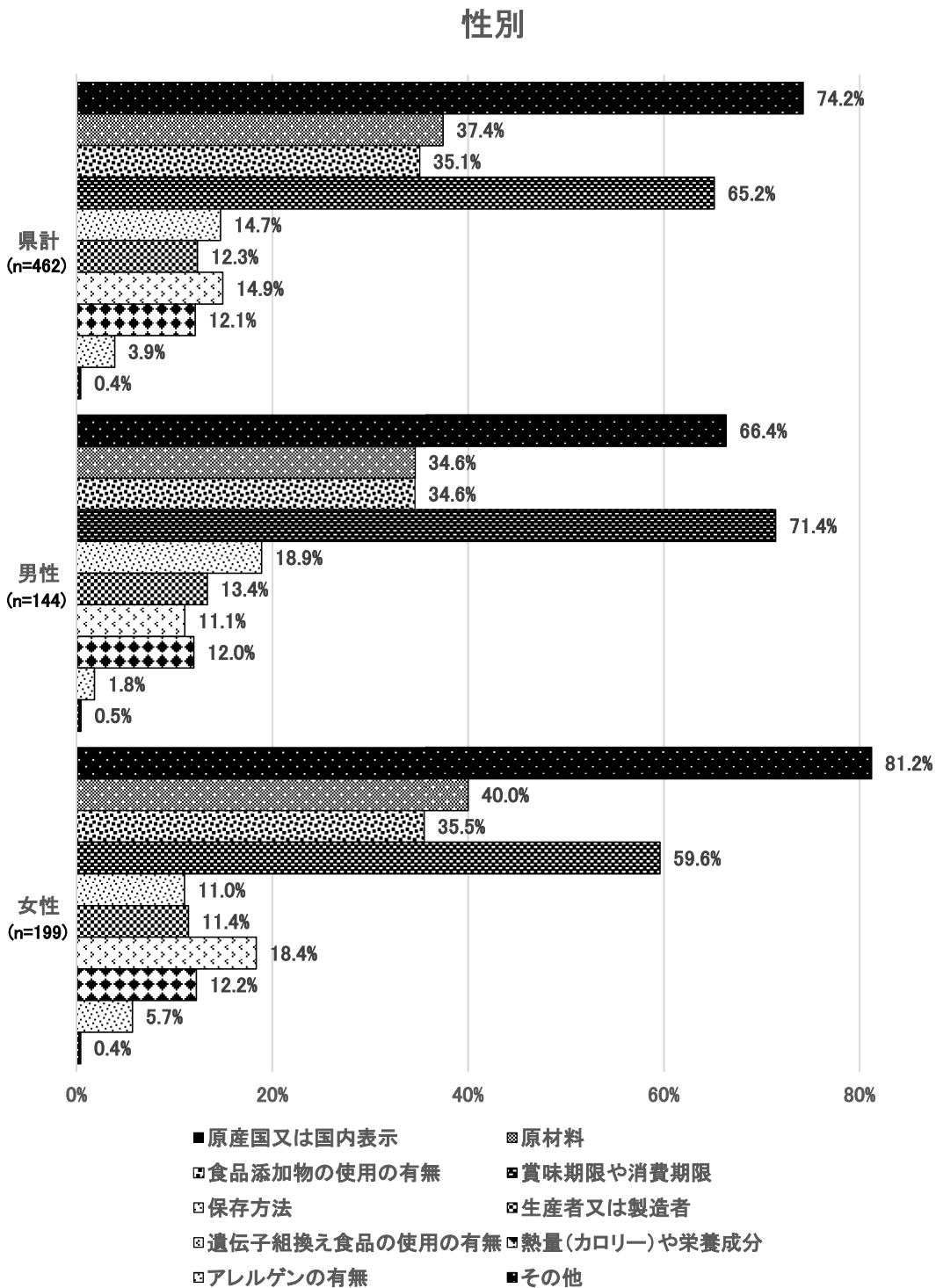
・食品の表示を確認するときに、どのような項目が重要だと思うかについて、全体でみると「原産国又は国内表示」が74.2%、「賞味期限や消費期限」が65.2%であった。

### 地域別



・地域別でみると、県北地区では「遺伝子組換え食品の使用の有無」が17.8%と、県央地区の13.6%、県南地区の15.0%と比べ高かった。

・県北地区では「保存方法」が17.8%と、県央地区の15.4%、県南地区の11.0%と比べ高かった。

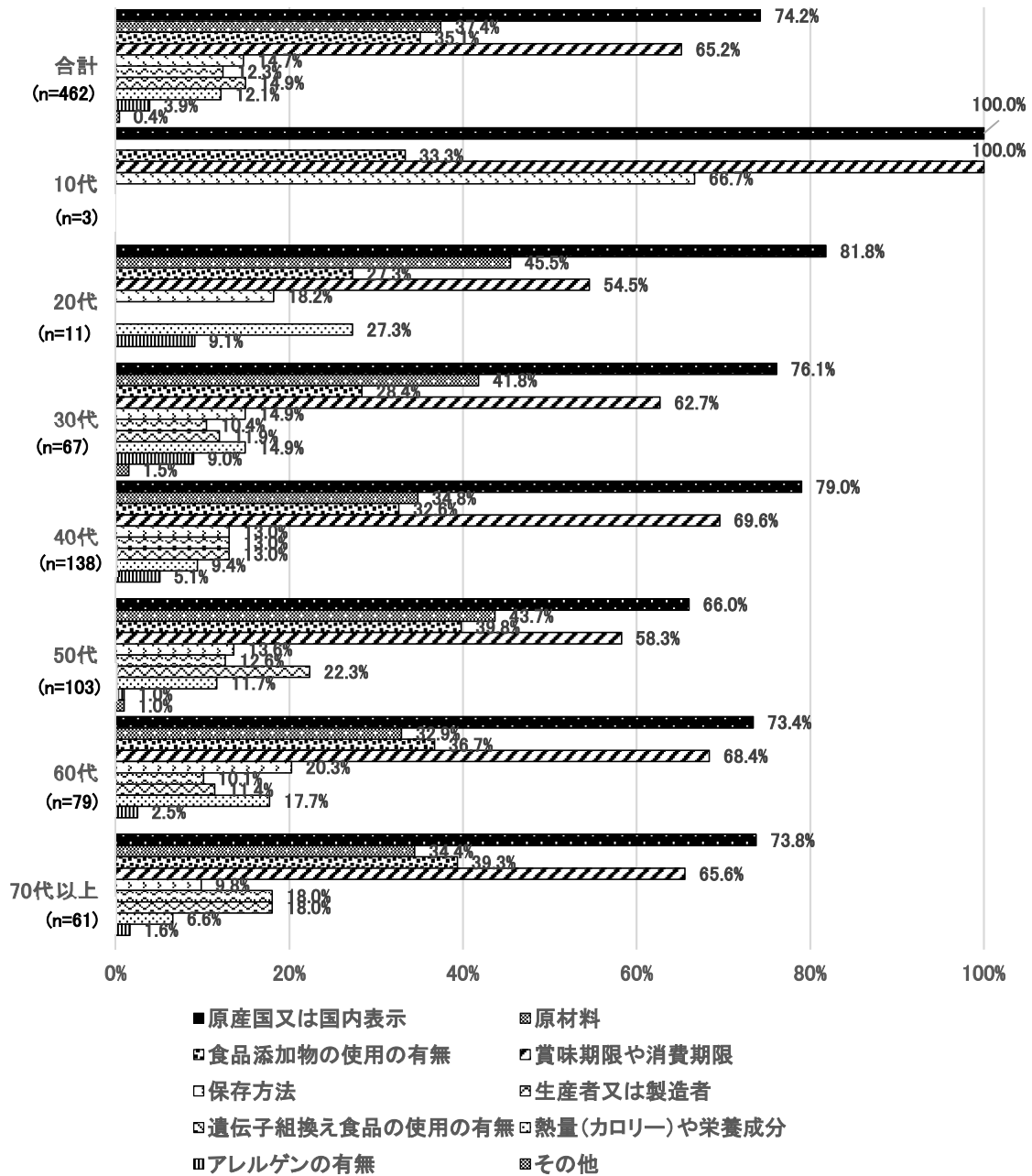


・性別でみると、女性では「原産国又は国内表示」が81.2%と、男性の66.4%と比べ高かった。

・男性では「賞味期限や消費期限」が71.4%と、女性の59.6%と比べ高かった。

・女性では「遺伝子組換え食品の使用の有無」が18.4%と、男性の11.1%と比べ高かった。

## 年代別

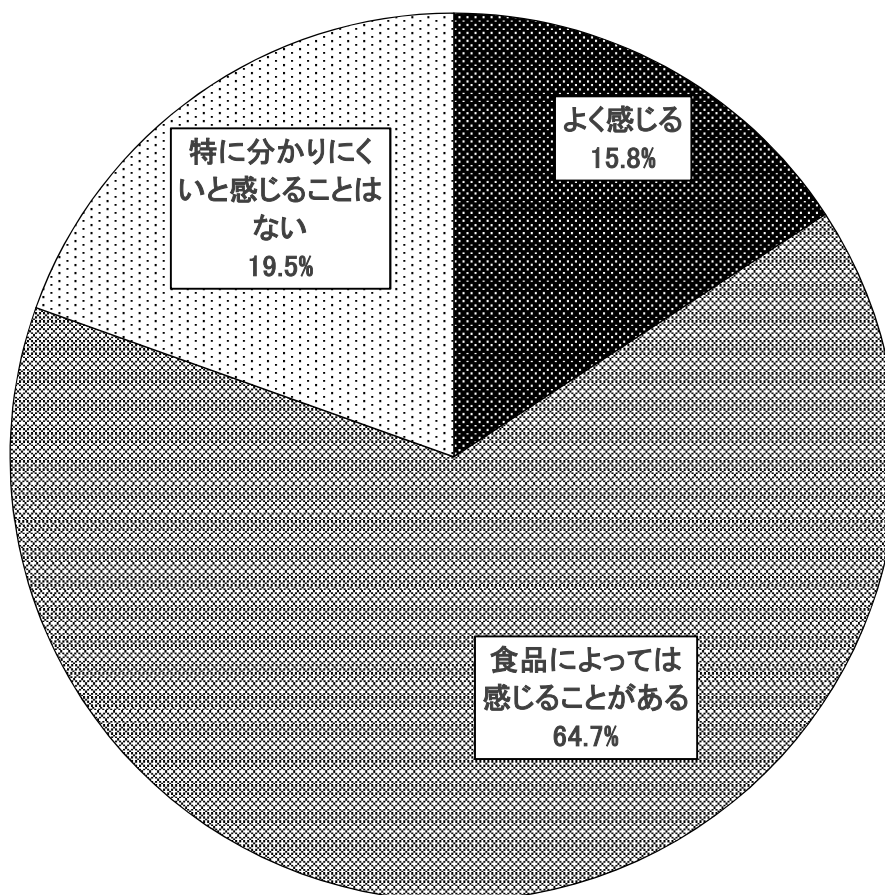


・年代別でみると「保存方法」は60代が20.3%と他の世代と比べ高かった。

\* 10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

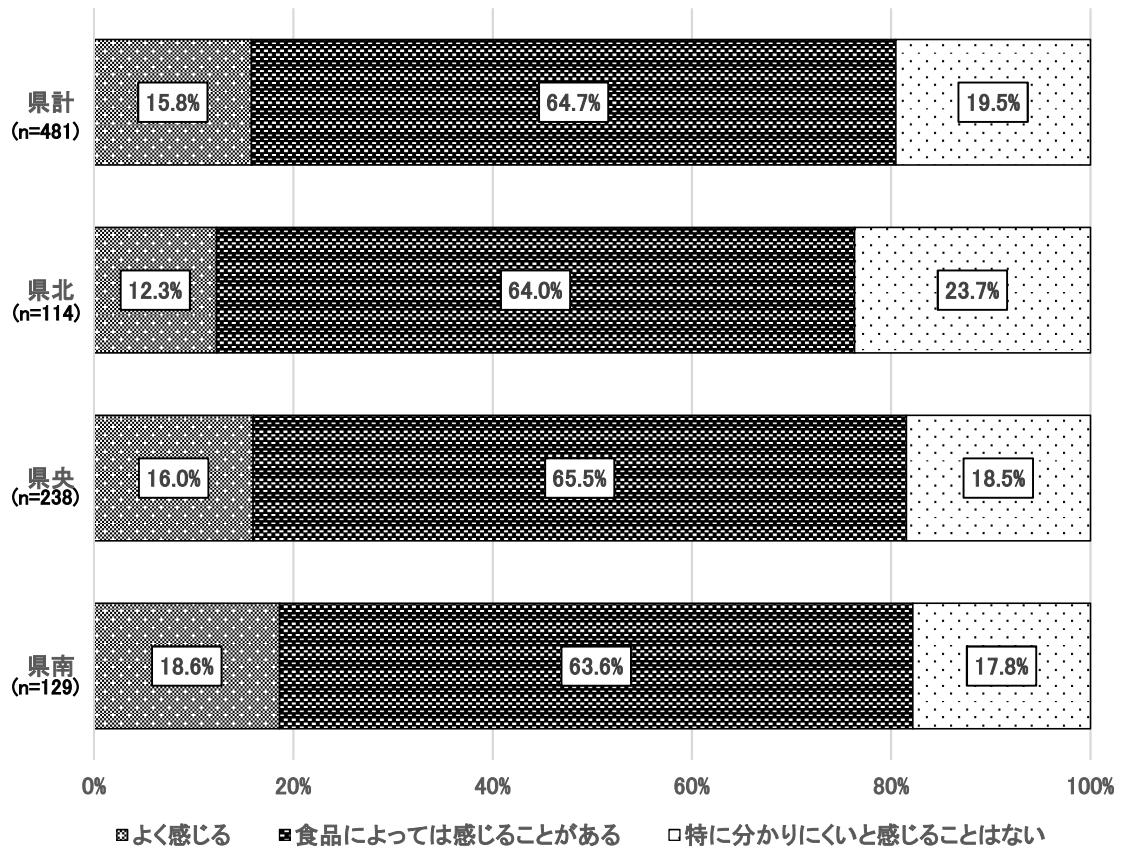
【問8】食品の表示について分かりにくいと感じることがありますか。(n=481)

	構成比	回答数
1 よく感じる	15.8%	76
2 食品によっては感じることもある	64.7%	311
3 特に分かりにくいと感じることはない	19.5%	94



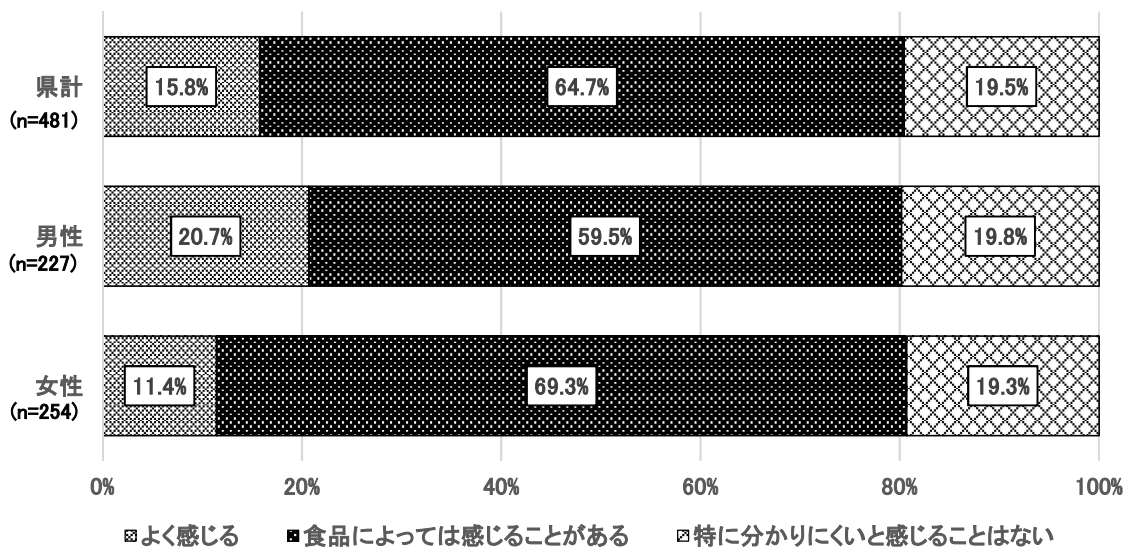
・食品の表示について分かりにくいと感じるかについて、全体で見ると「食品によっては感じることもある」が 64.7%、「特に分かりにくいと感じることはない」が 19.5%、「よく感じる」が 15.8%であった。

## 地域別



・地域別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

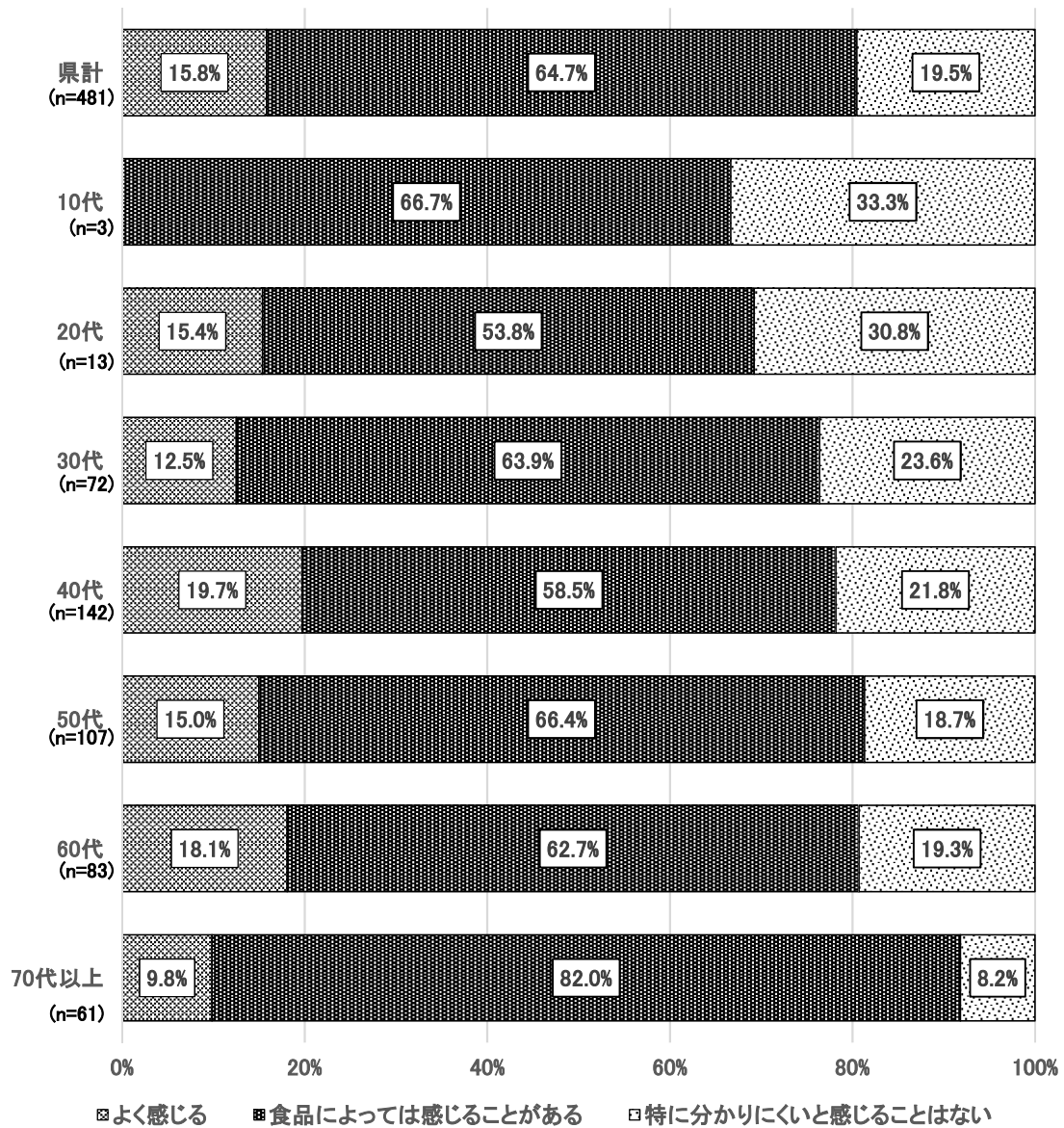
## 性別



- ・性別でみると、男性では「よく感じる」が 20.7%と、女性(11.4%)と比べ 9.3 ポイント高かった。
- ・女性では「食品によっては感じることもある」が 69.3%と、男性(59.5%)と比べ 9.8 ポイント高かった。



## 世代別



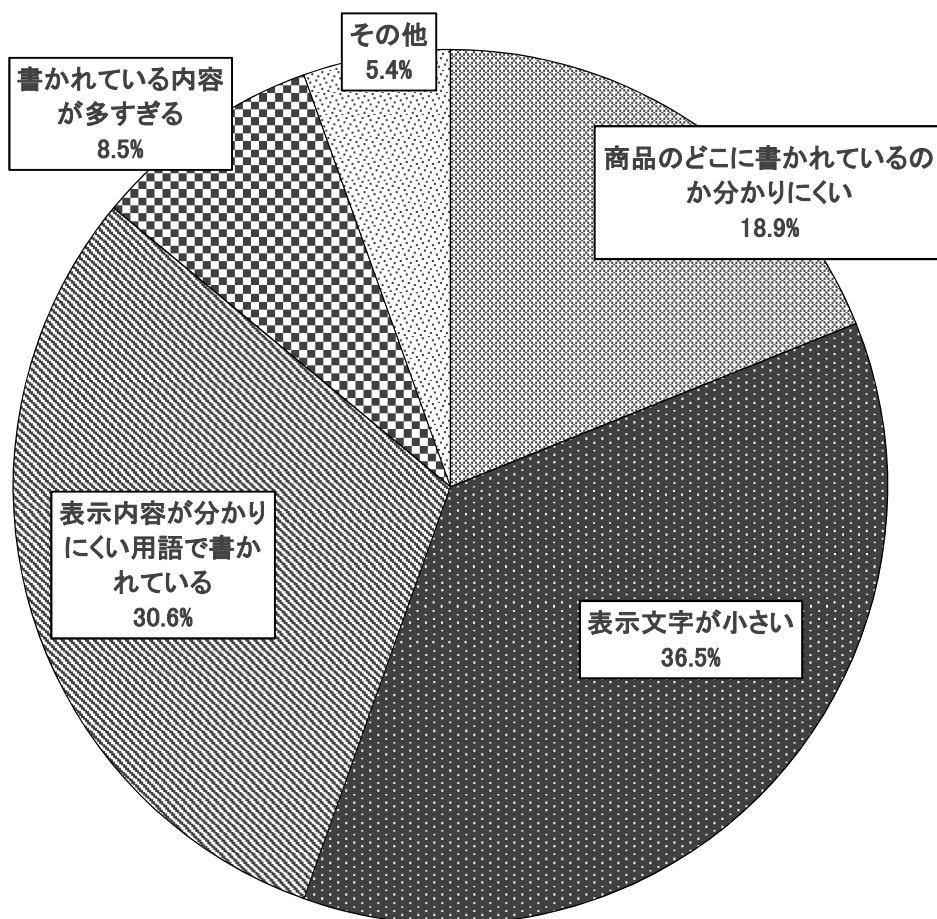
- ・年代別でみると「よく感じる」は、70代以上が9.8%と他の世代と比べ低かった。
- ・「食品によっては感じることもある」は、70代以上が82.0%と最も高かった。
- ・「特に分かりにくいと感じることはない」は、70代以上が8.2%と他の世代と比べ低かった。

\* 10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問9】(問8で選択肢1, 2を選んだ方にお聞きします。)

あなたが、食品の表示について「分かりにくい」と感じるのは、主にどのような点についてですか。(n=386)

	構成比	回答数
1 商品のどこに書かれているのかが分かりにくい	18.9%	73
2 表示文字が小さい	36.5%	141
3 表示内容が分かりにくい用語で書かれている	30.6%	118
4 書かれている内容が多すぎる	8.5%	33
5 その他	5.4%	21

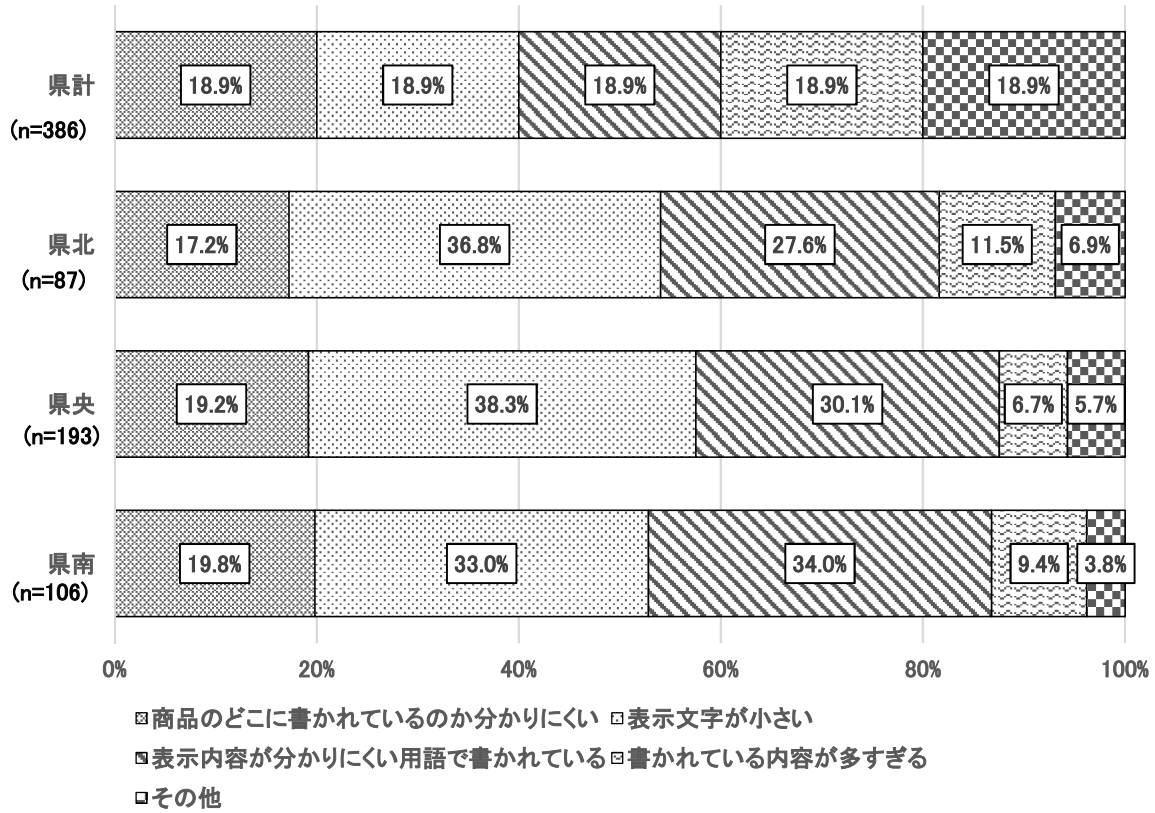


〔その他の主な意見〕

- ・商品によって知りたい情報の記載が省略されている。(11人)
- ・商品によって記載場所が異なる。(3人)
- ・栄養成分表示が100g当たりであったり、実際の内容量に対してであったり分かりにくい。(2人)

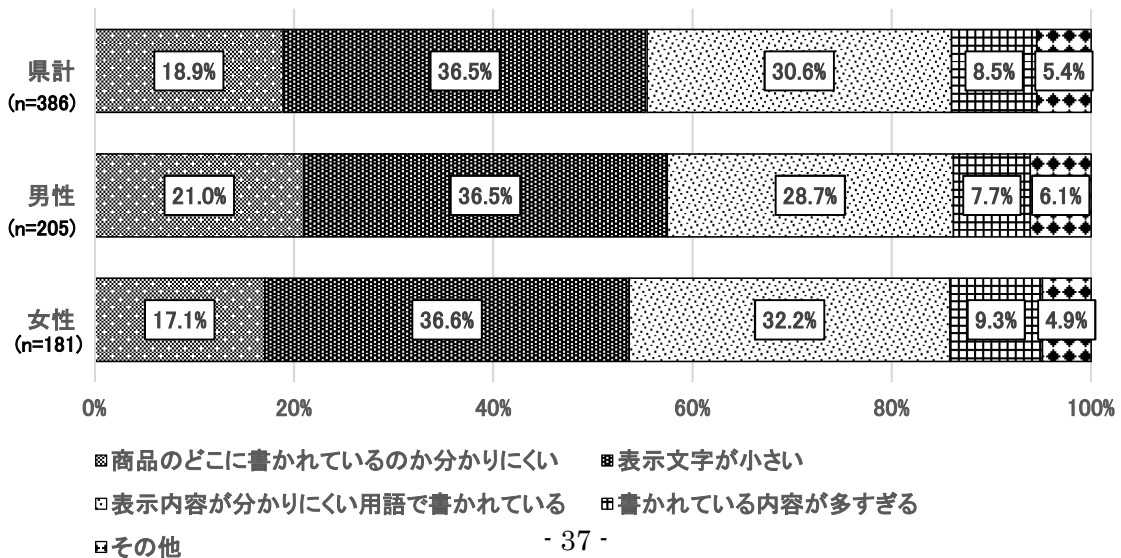
・食品の表示について「分かりにくい」と感じるのは、主にどのような点かについて、全体でみると「表示文字が小さい」が 36.5%、「表示内容が分かりにくい用語で書かれている」が 30.6%であった。

### 地域別



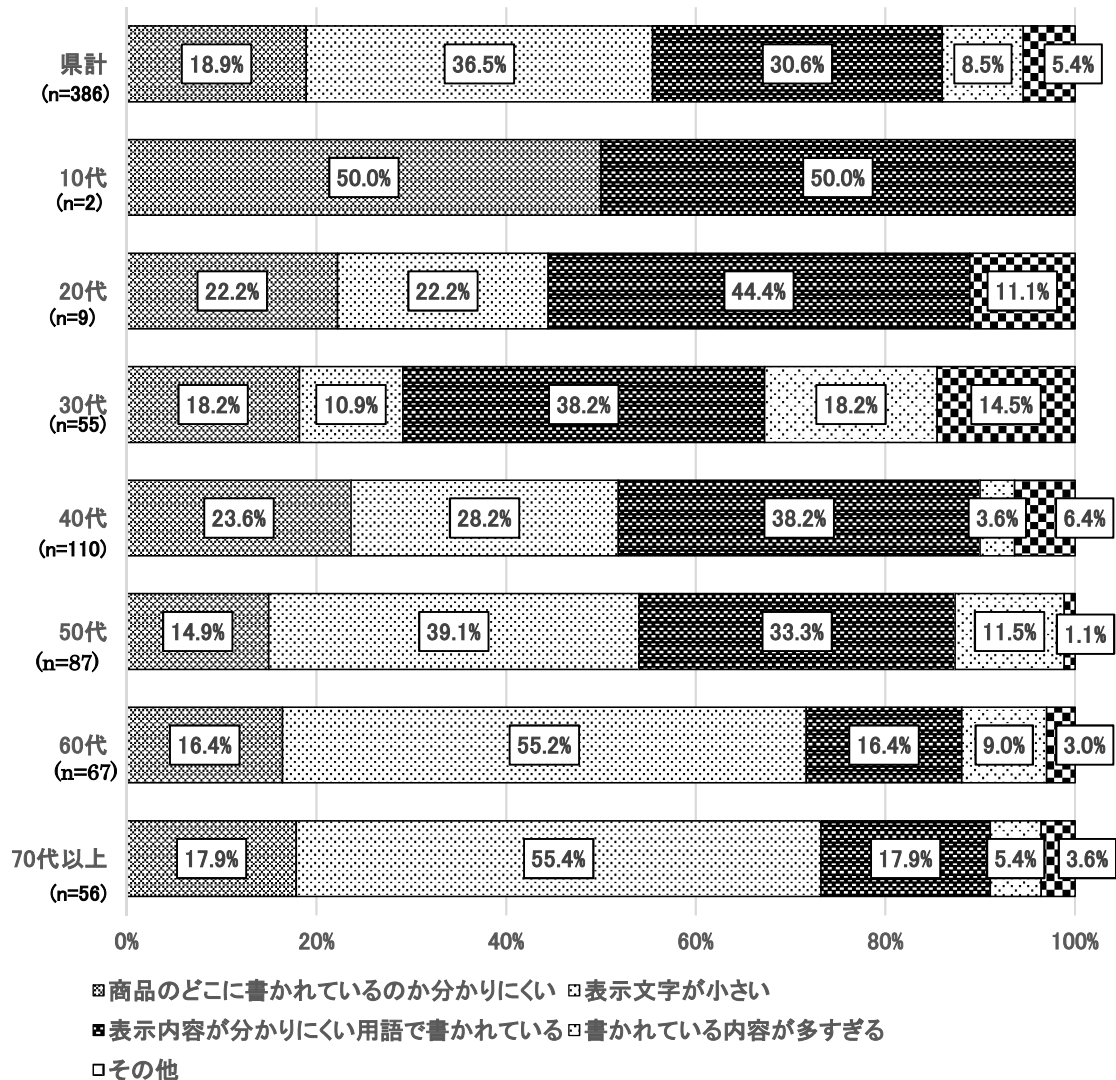
・地域別でみると、県南地区では「表示内容が分かりにくい用語で書かれている」が 34.0%と、県北地区の 27.6%、県央地区の 30.1%と比べ高かった。  
 ・県北地区では「知らない」が 32.1%と、県南地区の 28.3%、県央地区の 30.6%と比べ高かった。

### 性別



・性別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

### 年代別



・年代別でみると「商品はどこに書かれているのかわかりにくい」は、40代が23.6%と他の世代と比べ最も高かった。

・「表示文字が小さい」は、70代以上が55.4%、60代が55.2%と他の世代と比べ高かった。

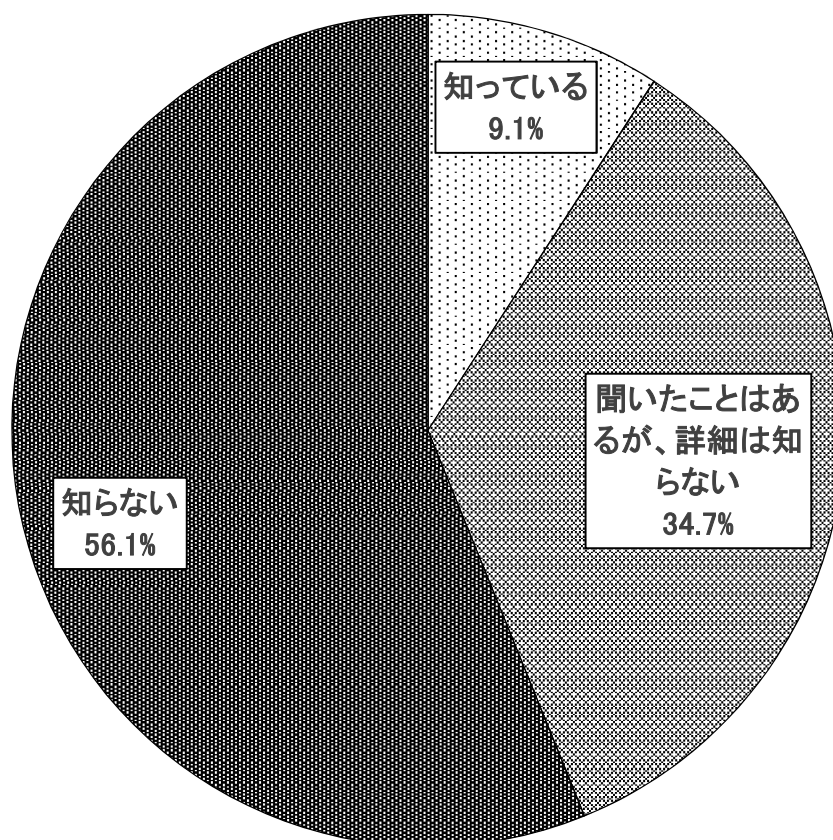
・「表示内容がわかりにくい用語で書かれている」は、30代が38.2%、50代が38.2%、50代が33.3%と、60代(16.4%)、70代以上(17.9%)と比べ高かった。

\* 10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問 10】 あなたは、「GAP：ギャップ(農業生産工程管理) (※)」を知っていますか。

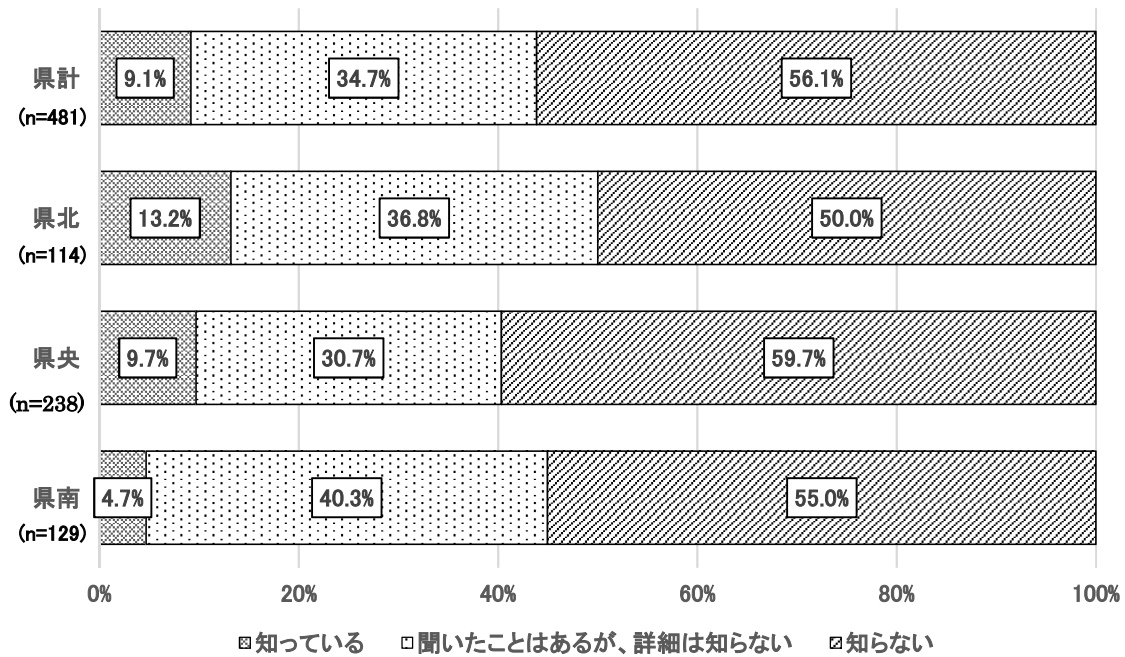
※「GAP：ギャップ」とは、農業において、農作物の安全、環境の保全、作業者の安全を確保するため、生産工程を管理する取組のことです。(n=481)

	構成比	回答数
1 知っている	9.1%	44
2 聞いたことはあるが、詳細は知らない	34.7%	167
3 知らない	56.1%	270



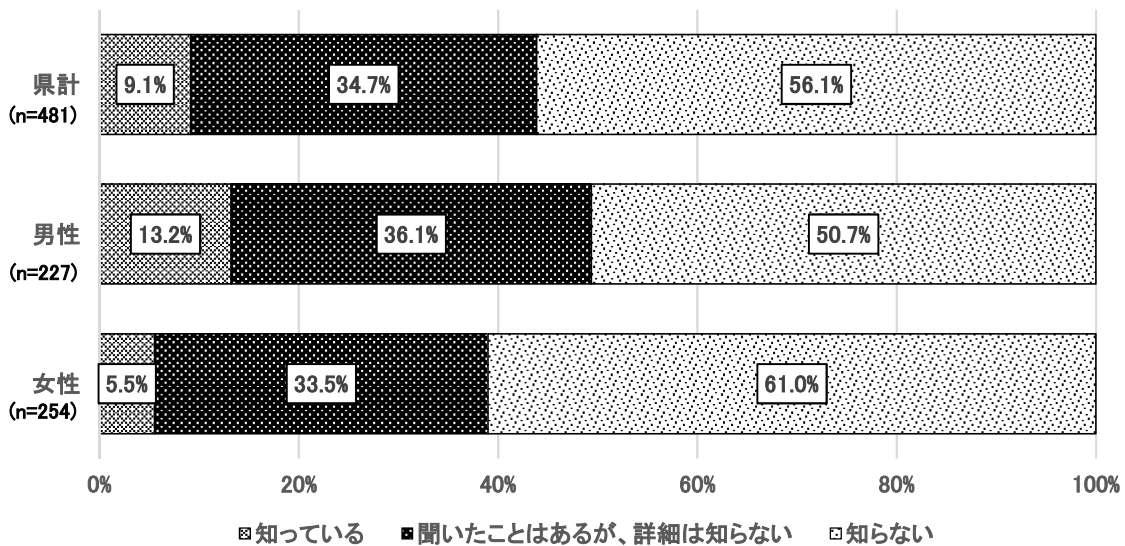
・GAPの認知度について、全体で見ると「知らない」が56.1%、「聞いたことはあるが、詳細は知らない」が34.7%、「知っている」が9.1%であった。

## 地域別



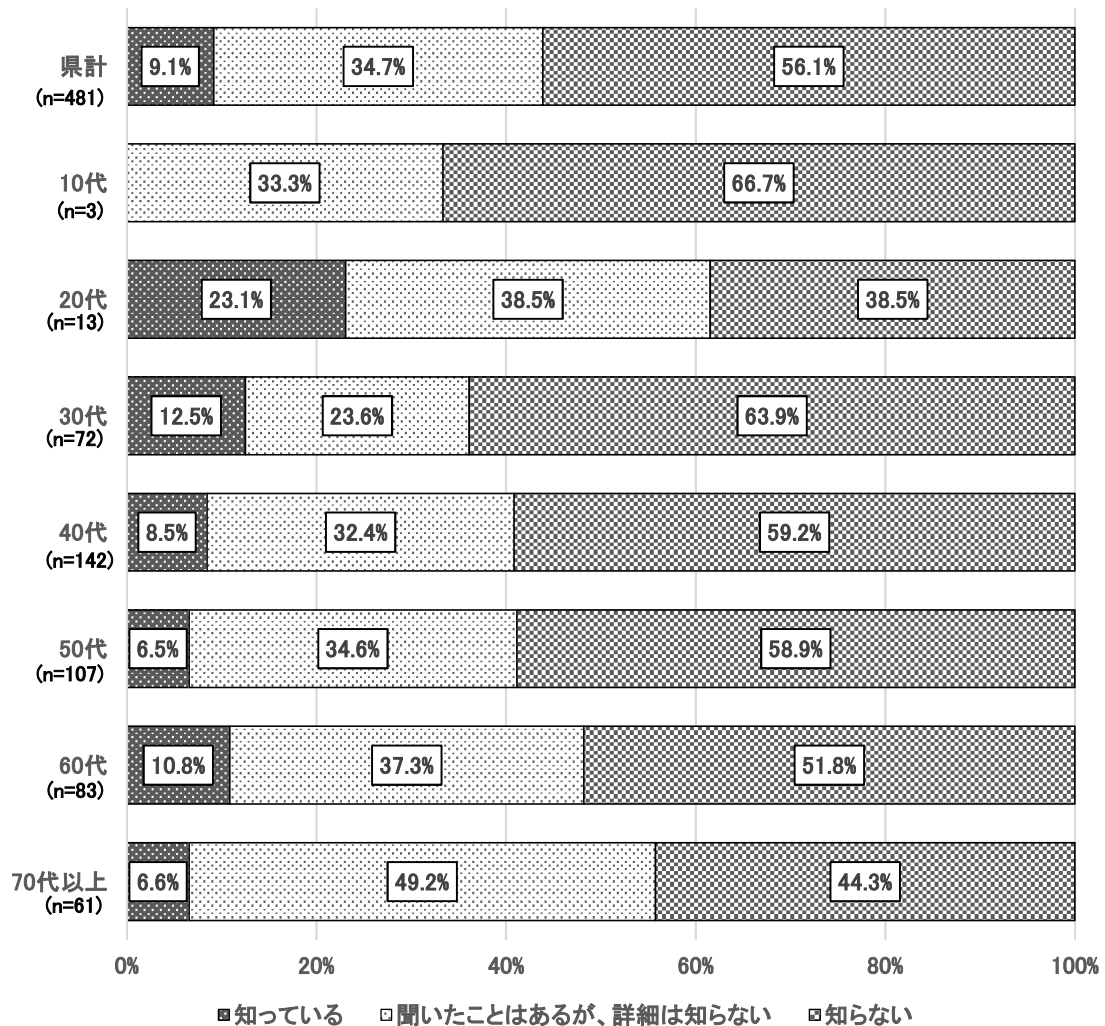
- ・地域別でみると、県北地区では「知っている」が 13.2%と、県央地区の 9.7%、県南地区の 4.7%と比べ高かった。
- ・県南地区では「聞いたことはあるが、詳細は知らない」が 40.3%と、県北地区の 36.8%、県央地区の 30.7%と比べ高かった。

## 性別



- ・性別でみると、男性では「知っている」が 13.2%と、女性(5.5%)と比べ 7.7 ポイント高かった。
- ・女性では「知らない」が 61.0%と、男性(50.7%)と比べ 10.3 ポイント高かった。

## 年代別



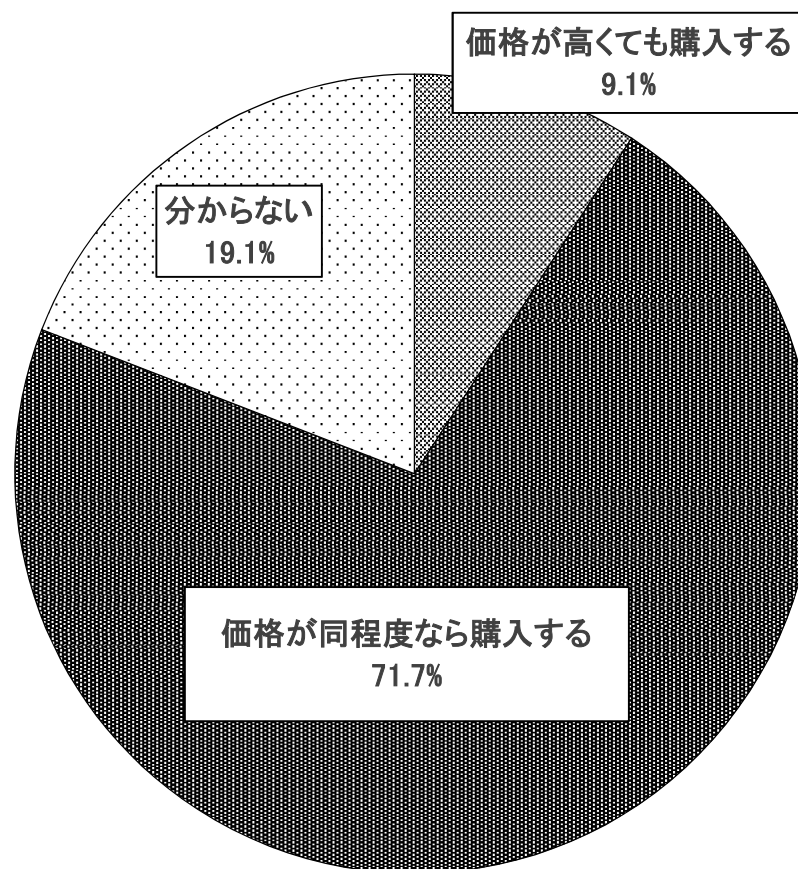
- ・年代別でみると「知っている」は、30代が12.5%、60代が10.8%と他の世代と比べ高かった。
- ・「聞いたことはあるが、詳細は知らない」は、70代以上が49.2%、60代が37.3%、50代が34.6%、40代が32.4%であった。
- ・「知らない」は、30代が63.9%、40代が59.2%、50代が58.9%、60代が51.8%であった。

\* 10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問 11】あなたは、「GAP 認証(※)」を取得した農産物を購入したいと思いますか。

※「GAP 認証」とは GAP を実践している農場が、民間の認証基準に合格していることを示すものです。(n=481)

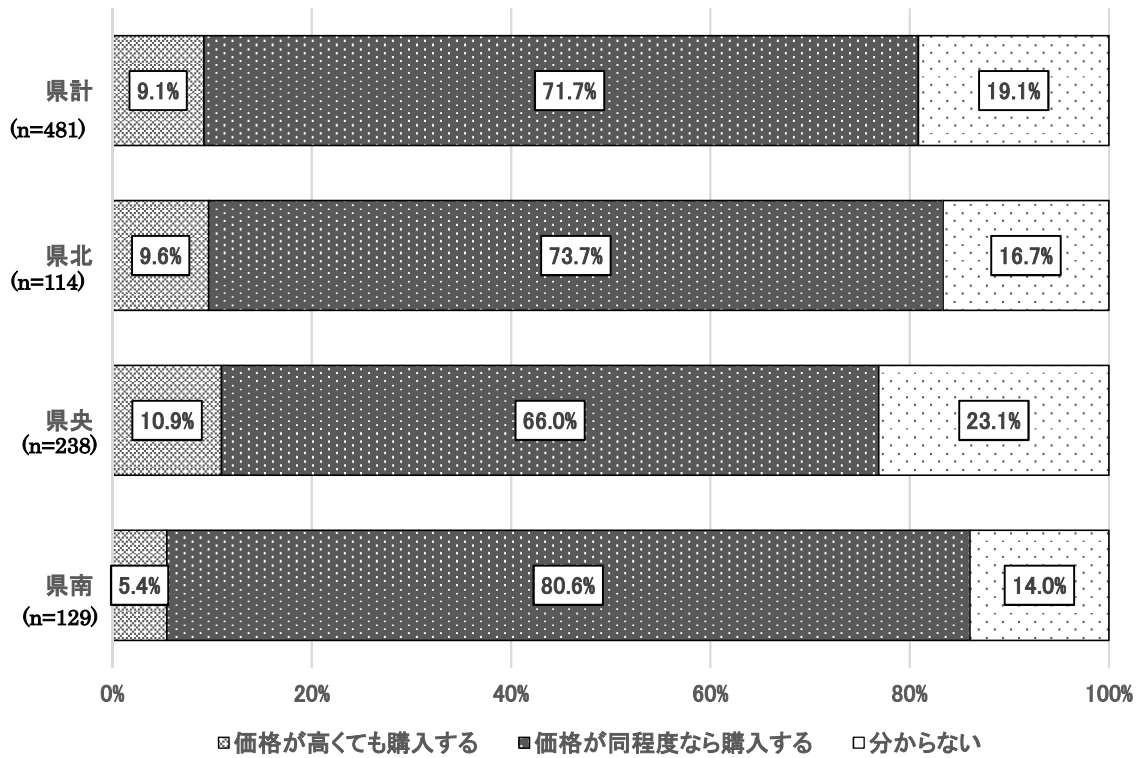
	構成比	回答数
1 価格が高くても購入する	9.1%	44
2 価格が同程度なら購入する	71.7%	345
3 分からない	19.1%	92



・「GAP 認証」を取得した農産物を購入したいと思うかについて、全体で見ると「価格が同程度なら購入する」が 71.7%であり、「分からない」が 19.1%であった。

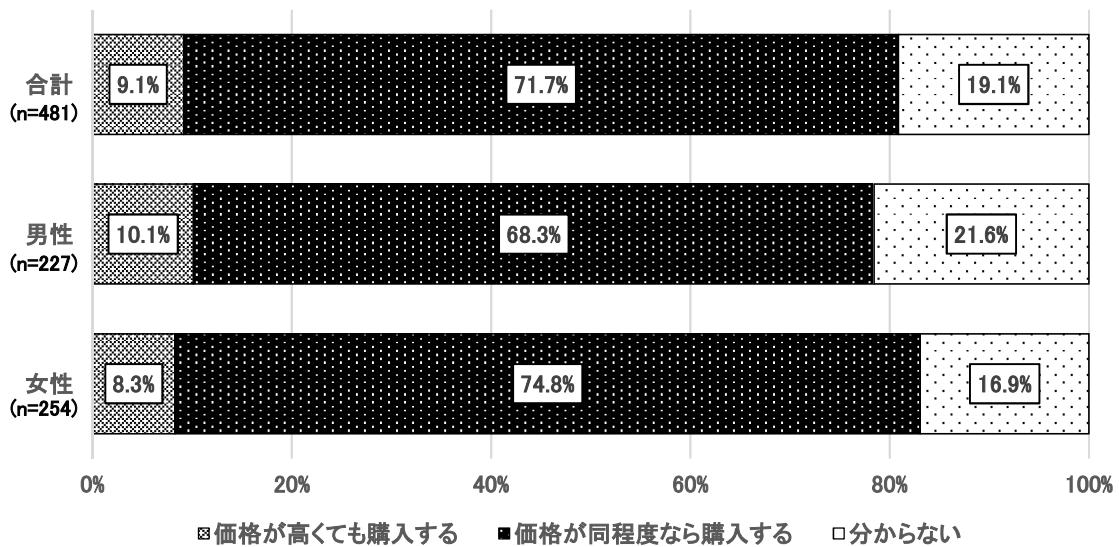


## 地域別



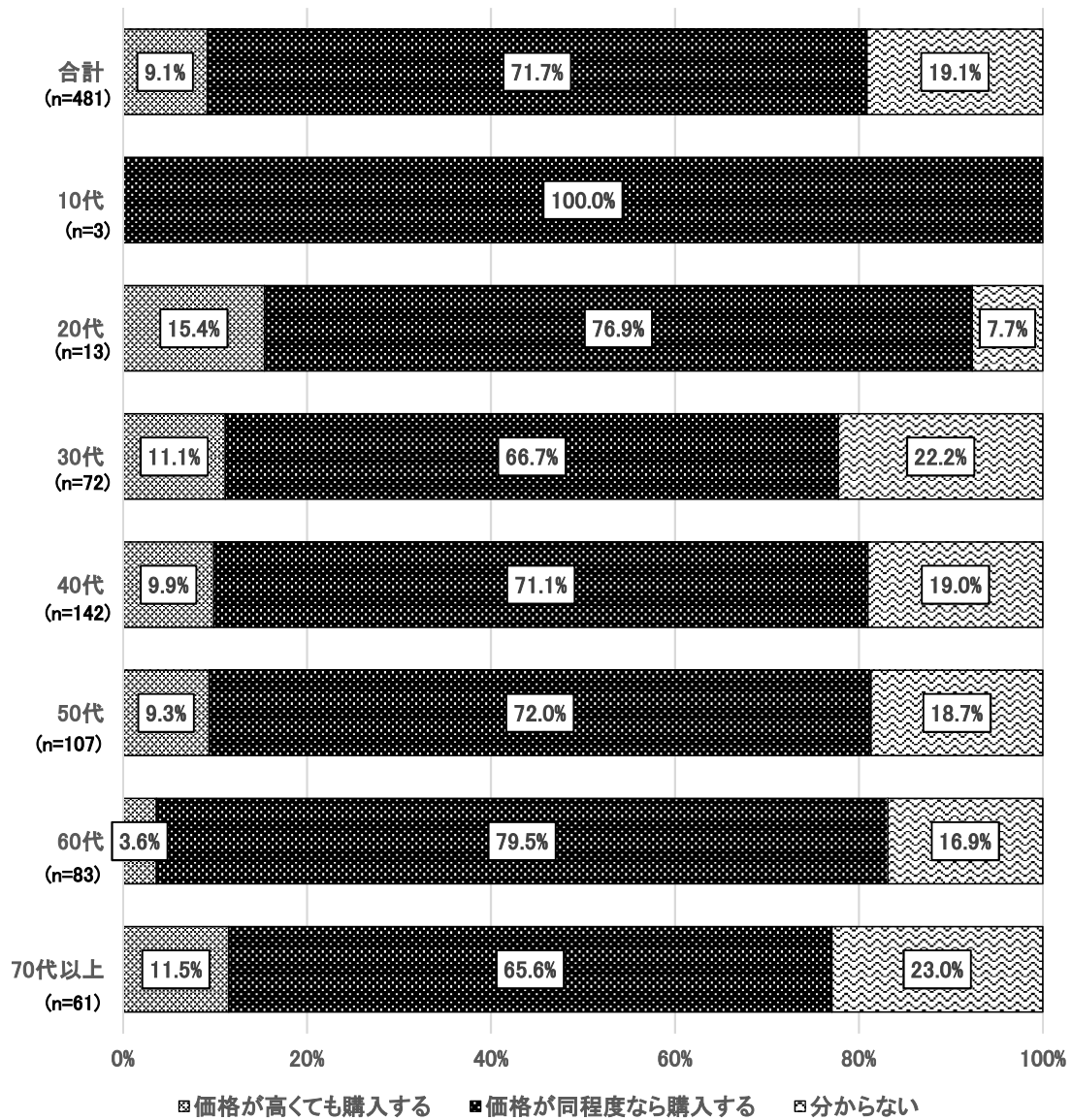
・地域別でみると、県南地区では「価格が同程度なら購入する」が 80.6%と、県北地区の 73.7%、県央地区の 66.0%と比べ高かった。

## 性別



・性別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

## 年代別



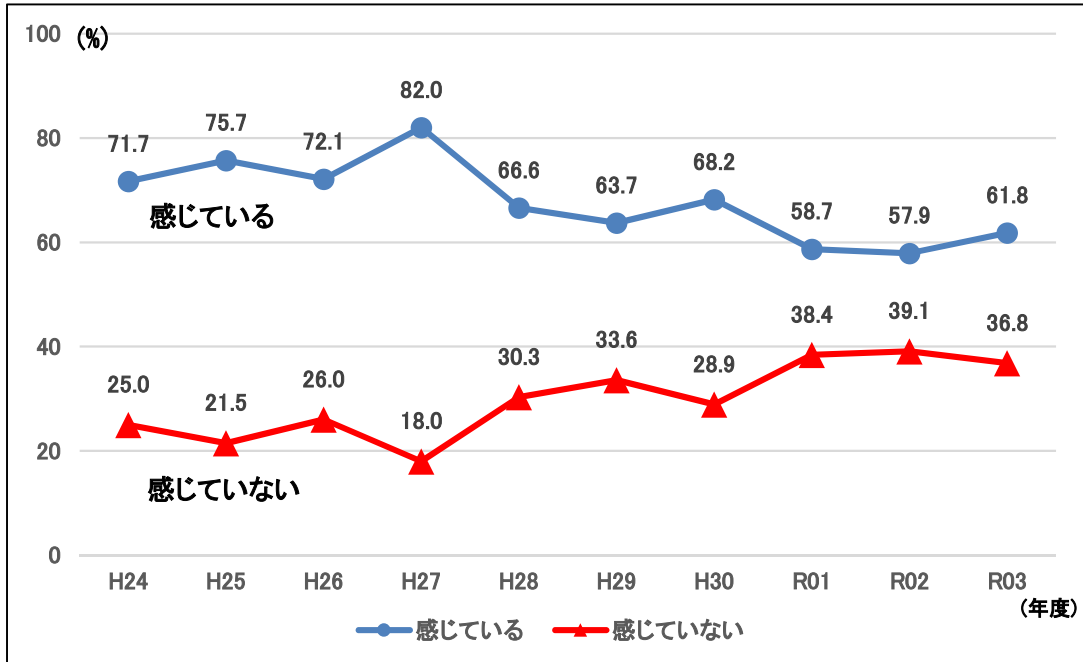
- ・年代別で見ると「価格が高くて購入する」は60代が3.6%と他の世代と比べ低かった。
- ・「価格が同程度なら購入する」が、60代が79.5%、50代が72.0%、40代が71.1%であった。

\* 10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

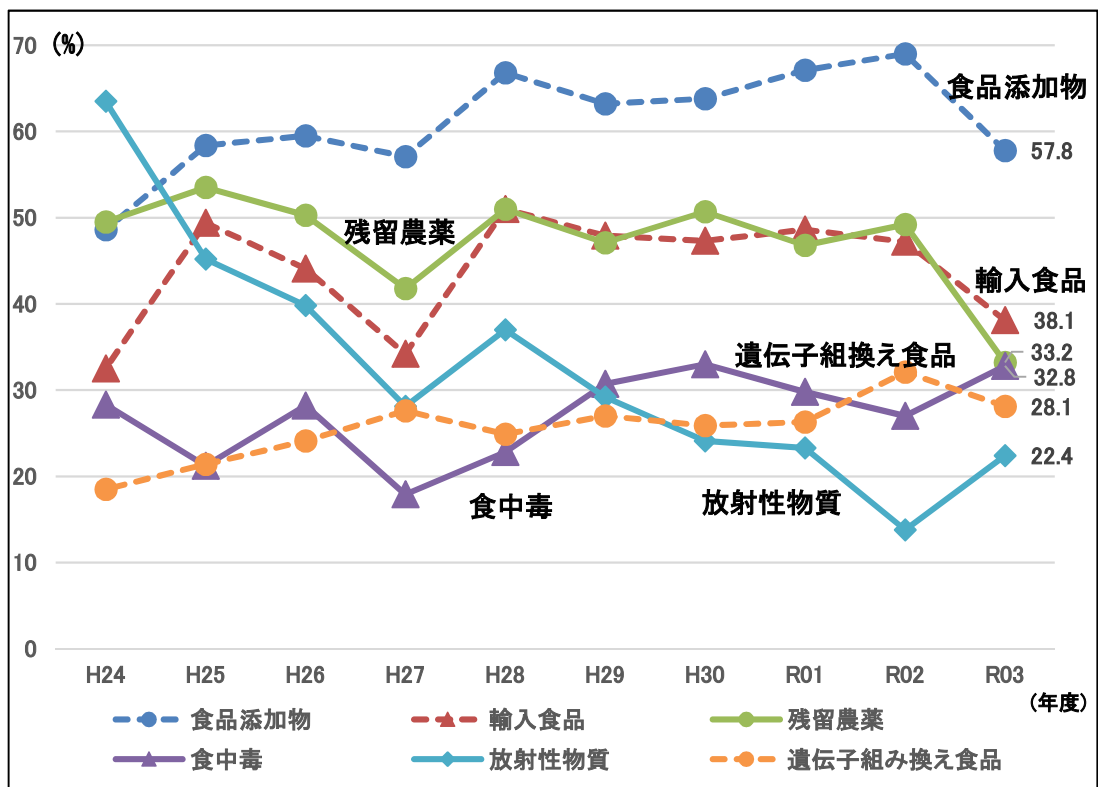
### Ⅲ 参考データ

#### 1 県政世論調査

(1) 食品の安全性についてあなたは、不安を感じていますか？



(2) 食品の安全性に不安を感じている方が、食品のどのような部分について不安を感じているか？



\* H27年度は、とちぎネットアンケートによる結果

## IV 考察

### 1 普段の食事について(問1、2)

- ・普段の食事のとり方については、「自分が惣菜・弁当を購入してくる」は男性が高かったことから、新型コロナウイルス禍における新たな生活様式としての飲食店からのテイクアウト等の食に関わる安全対策を男性に対して周知することが有効であると考えられる。
- ・安全な食生活を送るために意識していることについて、「食事や調理の前の手洗い」が最も高いことから、ノロウイルスや新型コロナウイルスの対策にも効果的である手洗いを、また、「よく加熱する(生食用を除く)」も上位で回答されているので、近年、鶏肉の生食を原因とするカンピロバクター食中毒が多く発生していることを考慮すると、加熱による食中毒防止をセミナー等のテーマとして採用することが有効であると考えられる。

### 2 食の安全についての不安について(問3、4、5)

- ・過去に実施した県政世論調査等では「感じている」が経年的に減少しているが、依然として食の安全について不安を感じていると6割の者が回答しており、今回の調査(問3)においては、過去の調査と同様の傾向が見られる。
- ・食の安全について不安を「感じている」が、性別では女性が男性と比べ高く、年代別では70代以上、60代、50代、40代が7割を超える高かい傾向にあった。今回の調査はリスクコミュニケーションで対象とする性別、年代の参考となった。しかし、デジタル庁の調査(\*1)によると、デジタルデバイスの保有状況及び情報収集媒体としての使用度は、高い年代ほど保有率、活用率が低くなる傾向が示されていることから、高い年代をリスクコミュニケーションの対象とする場合は、配信型セミナーではなく、近場の集合型セミナーを開催することで参加しやすくなると考えられる。
- ・今回の調査において、過去に実施した県政世論調査と同様に「食品添加物」、「食中毒」が食の不安を感じている物として上位を占めており、リスクコミュニケーションを開催する際のテーマの参考となった。
- ・不安を感じたきっかけとなった事柄について、「テレビ・インターネット上の情報」、「事件・事故等のニュースや報道」が上位を占めていることから、行政が新たな情報をマスコミに対して発信する際は、発表する情報のリスクレベルや重要性をわかりやすい内容としてマスコミに伝える工夫をすることにより、その先の消費者が過大、もしくは過小に解釈されないよう、発信する側の真意を正しく受け取れるよう配慮することが重要である。

(\*1)「日本のデジタル度 2021」(2021年10月)デジタル庁

### 3 食品表示に関することについて(問6、7、8、9)

- ・食品表示で重要と思われる項目が品質事項では原産国又は国内表示、衛生事項では賞味期限や消費期限であったことから、これらの事項は興味がある事項でもあると考えられることからセミナー等の講話の核となるテーマの参考となった。

- ・食品表示が分かりにくいと多くの県民が感じており、分かりにくい用語で書かれていることが食品表示の分かりにくさに繋がっていることが考えられたことから、セミナー等において食品表示の用語を解説することが食品表示の理解に有効であると考えられる。

#### 4 GAP について(問10、11)

- ・地域別において認知度に大きな違いがあることから、地域の認知度を考慮して更なる消費者への周知が必要である。
- ・男性より女性において認知度が低いことから、女性が集まる会等を捉えて、更なる周知が必要である。